

平成28年9月

# 学ぶ意欲に及ぼす 子育て関連要因の 影響に関する研究

調査研究シリーズ No.

# 69



## まえがき

親の子育てのあり方は、子どもの学ぶ意欲にどのような影響を与えるのであろうか。これは、心理学的に古くて新しいテーマであるように思われる。

わが国における社会や教育のあり方が大きく変わってきていること、そしてわが国の子どもの学ぶ意欲（とくに自ら学ぶ意欲）が低い状態にあることを考慮すると、子育てが子どもの学ぶ意欲に及ぼす影響について、現在の状況をしっかり把握し対応することがとても重要であると考えられる。近年の心理学研究では、幼児期や小学校低学年の子どもの対象にした研究は少なく、またこの時期の子どもに対する子育ての影響が大きいことを考えると、こうした研究は急務であるといえる。

そこで本研究では、幼稚園の年中児と年長児ならびに小学校の1年生から3年生を対象に、その保護者と保育者・教師の協力のもと、子どもの学ぶ意欲ならびに成績に及ぼす親（とくに母親）の子育てに関連した要因の影響を、アンケート調査により明らかにすることを試みた。その際、子育て関連要因のひとつとして、現在の動機づけ心理学で盛んに研究されている「自己決定理論」における「関係性支援」・「有能感支援」・「自律性支援」という要因に配慮し、これらについて質問項目を作成し調査に用いた。それゆえ本研究は、学問的な面においても実践的な面においてと同様、大きな貢献ができるものと期待された。

なお、本研究を進めるにあたり、公益財団法人 日本教材文化研究財団より多大なご支援を賜った。とくに同財団の鍛治紀彦氏には研究会の運営をはじめ様々な面でお世話になった。また、幼稚園や小学校での調査に関しては、新学社の長津芳氏のお世話になった。さらに実際の調査の際には、保護者の方々ならびに幼稚園の保育者、小学校の先生方にご協力をいただいた。こうした皆様方に心より感謝申し上げます。

平成28年 5月

研究代表 櫻井茂男

# 目 次

## まえがき

序章 調査研究の概要	4
1章 調査の目的	8
2章 調査の方法	12
3章 調査の結果と考察	
1. 保護者編	22
2. 子ども編	30
3. 子育てと子どもの学ぶ意欲・成績との関係編	33
4章 まとめと提言	40
引用・参考文献	44
資料編	
① 保護者用調査票/保護者調査結果表	51
② 保育者・教師調査票/保育者・教師調査結果表	70

## 序章 調査研究の概要

## 学ぶ意欲に及ぼす子育て関連要因の影響に関する研究

### 1. 研究の目的

国際的な学力調査（PISAなど）によると、わが国の子どもの学力は向上傾向にあるものの、依然学びへの興味・関心（学ぶ意欲、とくに自ら学ぶ意欲）は低く、将来への展望も開けていない、というような状況にあり、子どもの学ぶ意欲のあり方が大きな問題となっている。生涯学習の時代を迎え、成長し大人になっても、自ら課題を見つけ積極的に学ぶことが必要である。

本研究では、子どもの学ぶ意欲、とくに自ら学ぶ意欲に大きな影響を与えると予想される「養育者（おもに母親）の子育て」に焦点を当て、その影響を検討する。本研究で対象となるのは、子育ての影響を受けやすい幼児期および児童期前期（小学校低学年）の子どもたちである。

養育者の子育てに関連した要因として重要なのは、養育者の発達観や養育態度・養育行動、さらには子育てへの自信などであろう。本研究では、こうした要因に関する従来の研究を検討し、その結果に基づき、関連する要因を測定する質問紙を作成し、子どもの自ら学ぶ意欲ならびに成績とこうした要因との関係を実証的に検討する。

### 2. 研究の方法

前項の目的を達成するために、以下のような方法で研究を行う。

- (1) 幼児期および児童期前期の子どもの自ら学ぶ意欲に影響する子育て関連要因について検討を行う。
- (2) 子どもの自ら学ぶ意欲に影響する子育て関連要因についての実証的な検討を行うために、質問紙を作成する。
- (3) 幼稚園と小学校低学年の子どもの養育者（おもに母親）および保育者・教師を対象に、調査・分析を行い、結果をまとめる。

### 3. 研究の経過と成果

<1年目>

上記の「研究の方法」における（1）と（2）をおもに行った。自ら学ぶ意欲に影響する子育て関連要因について文献研究を行い、重要な要因を決定し、実証的な研究に必要な質問紙を作成した。

質問紙（冊子）は、①子どもの自ら学ぶ意欲に影響する要因を測定する、幼稚園と小学校低学年の子どもの養育者に回答してもらうものと、②子どもの自ら学ぶ意欲と成績を測定する、子どもの保育者および教師に回答してもらうもの、で構成された。

①の質問紙については、養育者の、ポジティブな育児感情（子育てにおける自己効力感、育児への肯定感）、ネガティブな育児感情（育ちへの不安感、育児への拘束による負担感）、自尊感情、固定的な発達観、ポジティブな養育行動（主体性育成、意思尊重、自信育成、

助言、関与、温かさ)、ネガティブな養育行動(物的報酬、スパンキング、感情的叱責)を測定する尺度、ならびに子育て環境についての質問等で構成された。

②の質問紙については、子どもの自ら学ぶ意欲に関連する、拡散的好奇心、特殊的好奇心、独立達成、挑戦、粘り強さ、自己効力感と3種類の成績(言語理解・国語、数量理解・算数、運動・体育)を測定する尺度で構成された。

<2年目>

上記の「研究の方法」における(3)を中心に進めた。幼稚園と小学校でデータを収集し、統計的な分析を行い、結果をまとめた。

作成した質問紙を、都内の幼稚園6園と小学校4校(1~3年)に通う子どもを対象に、その養育者と保育者あるいは教師に配付し、最終的に1366名分のデータを分析対象とした。

主な結果としては、①「ポジティブな育児感情→ポジティブな養育行動→子どもの学習意欲→成績」という影響があること(ただし、ポジティブな養育行動から子どもの学習意欲への影響は幼児のみ)、②「ネガティブな育児感情→ネガティブな養育行動→子どもの学習意欲→成績」という影響があること(ただし、ネガティブな養育行動は子どもの学習意欲を低める影響である)、③養育者の固定的な発達観(子どもの能力を固定的に捉える見かた)はポジティブな養育行動を少なくさせ、ネガティブな養育行動を多くさせる影響があること(後者は幼児のみ)、④ネガティブな養育行動のなかでも「物的報酬」には子どもの学習意欲を低下させる影響があること、⑤夫が同居している場合、夫のサポートがあると感じている母親は、ポジティブな育児感情が高く、ネガティブな育児感情が低い、さらに行動面ではポジティブな養育行動が多く、ネガティブな養育行動(おもにスパンキング:たたくこと)が少ないこと、が明らかになった。

#### 4. 研究の組織

氏名	所属	分担
櫻井 茂男	筑波大学人間系 教授	研究の統括 (研究会の運営)
富田 久枝	千葉大学教育学部 教授	理論的な検討と調査の統括 (渉外)
鈴木 公基	関東学院大学人間環境学部 准教授	理論的な検討と調査の統括 (渉外)
大内 晶子	常磐短期大学幼児教育保育学科 准教授	理論的な検討と調査の推進 (渉外)
倉住 友恵	筑波大学大学院 院生	理論的な検討と調査の推進 書記(研究会の記録)

(平成28年3月現在)

## 1章 調査の目的

私たちが、日々の生活の中で何かを知ろうとしたり、物事に対する理解を深めようとしたり、また、うまくできるようになろうと努力や工夫をしたりすることは、「学ぶ意欲」に支えられていると言ってよい。この学ぶ意欲によって私たちは、よりよく考え行動することができるようになる。学ぶ意欲というと、それは、おもに児童期（小学校時代）以降の子どもに関するものと考えられがちであるが、より広い人々にあてはめることができる。特に、生涯発達や生涯学習という考えが浸透してきた今日においては、それは成人や高齢者にも、また、より年少の子どもたちにもあてはめて考えることのできる、重要なものといえる。

子どもに関して言えば、学ぶ意欲は学業的達成やスキルの獲得と関連している。当然のことであるが、学ぶ意欲が高いほど、高い学業成績やそのためのスキルや態度の獲得を期待することができる。例えば、2015年度に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果では、物事に対する関心や学ぶことへの努力や工夫を示す項目（例えば、地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか）で肯定的な回答をした割合は、学力調査の正答率が高い子どもにおいて高いことが明らかにされている（文部科学省、2015）。この「全国学力・学習状況調査」で取り上げられている項目は、学ぶ意欲との関連性が非常に強いものである。また、学ぶ意欲と密接に関連するものとして学習への動機づけをあげることができる（櫻井、2009）が、この動機づけは学業成績（西村・河村・櫻井、2011）と関連しているばかりでなく、学業に対する有能感やその方略を含む学業適応（西村・櫻井、2013）とも関連していることが明らかにされている。これらの結果からも、学ぶ意欲と学業達成や学びにおけるスキルや態度との関連は明らかである。

学ぶ意欲は、発達の過程で形成されてゆくものとして考えることもできる。生まれたときから人間は外界からさまざまな刺激を受けて発達してゆく。学ぶ意欲の発達も幼少時から始まるものと考えられるべきであろう。しかし、わが国における学ぶ意欲に関する発達の研究は、そのほとんどが小学校高学年以上を対象としたものである。それ以前の小学校の低学年や幼児の段階においては、どのようにして学ぶ意欲が形成されるのか十分に検討されていない。人格発達の基礎が形成されるより年少の時期において、学ぶ意欲がいかにして形成されるのかを明らかにしていくことが求められる。

さて、本調査では子どもの学ぶ意欲に影響を及ぼすものとして親の子どもへの関わりに着目したい。従来から、親の子どもへの関わり方は子どもの発達に影響を及ぼす重要な要因であることが示されている。例えば、子どもの不注意・多動傾向への影響（松岡・岡田・谷・大西・中島・辻井、2011）や問題行動への影響（中台・金山・前田、2004）などである。さらに、子どもの学びに与える影響を検討した研究として、内田（2012）や齋藤・内田（2013）をあげることができる。これらの研究では、親のしつけのスタイルと、子どもの諸能力との関連が検討され、親のしつけのスタイルが子どもの語彙力と関連のあることを明らかにされている。こうした結果を学ぶ意欲の観点から解釈すると、親のしつけのスタイルは子どもの学ぶ意欲に影響を与え、その学ぶ意欲によって学習活動が促進・阻害され、語彙力が高まったり低まったりしたということになる。すなわち、親の子どもへの関



わりが子どもの学ぶ意欲を促進したり、阻害したりする要因となると考えられるのである。

本調査では、親の子どもへの関わりを「養育行動」という観点から捉えてゆく。親の養育行動は、ポジティブな養育行動・ネガティブな養育行動の2種類に分けて捉えることが可能である。それぞれが学ぶ意欲にいかなる影響を与えるのかについて明らかにしていきたい。また、親の養育行動はさまざまな要因に影響を受けていると予想される（例えば、荒牧・無藤，2008）。本調査では、親の子育てに対する感情（ポジティブな育児感情・ネガティブな育児感情）、親の発達観、自尊感情をとりあげ、それらが養育行動や、さらには学ぶ意欲やその結果としての成績とどのように関連するのかについてもあわせて明らかにしたい。

以上をまとめると、本調査の目的は、子どもの学ぶ意欲やその結果としての成績に対して親の養育行動がどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることである。また、それら諸要因と子育てに対する感情や発達観、自尊感情といった親の心理的な要素がいかに関連しているのかも明らかにする。

以上の問題意識および研究目的をふまえ、本調査では図1-1の仮説モデルを提起する。この仮説モデルは、子どもの学ぶ意欲に各種の要因が影響を及ぼすプロセスを統合的に示している。そしてこの仮説モデルにおいては、子どもの学ぶ意欲は親の養育行動に影響を受けるが、その養育行動は親の育児感情・自尊感情ならびに発達観に影響を受けるものと想定されている。すなわち、育児感情・自尊感情・発達観が養育行動へ、養育行動が学ぶ意欲へ、さらには学ぶ意欲が成績へ影響を与える、という一連の影響プロセスを予測しているのである。

本調査では、この仮説モデルの妥当性についてもあわせて検証する。

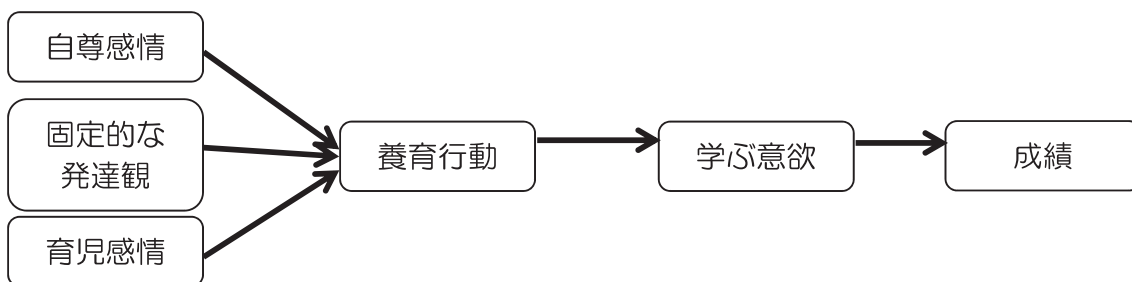


図1-1 本調査における仮説モデル

(鈴木公基・櫻井茂男)

## 2章 調査の方法

## (1) 調査対象者ならびに調査協力者

### ① 調査対象者

東京都内の私立および公立の幼稚園6園の年中児と年長児，ならびにその近隣の公立小学校4校に通う1～3年生，計2097名が調査対象者であった。調査協力者は，子どもたちの保護者と，保育者（幼稚園教員）あるいは教師（小学校教員）であった。表2-1，表2-2に保護者用質問紙の配付数および回収数を幼小別に示した。表2-3に保育者・教師用質問紙の配付数および回収数を示した。

表2-1 保護者用質問紙の配付数および回収数（幼稚園）

調査対象園	年中	年長	合計
A幼稚園	149	152	301
B幼稚園	82	88	170
C幼稚園	117	85	202
D幼稚園	89	75	164
E幼稚園	7	12	19
F幼稚園	47	58	105
配付数合計	491	470	961
回収数合計	368	380	748
回収率	74.95%	80.85%	77.84%

表2-2 保護者用質問紙の配付数および回収数（小学校）

調査対象校	1年	2年	3年	合計
G小学校	105	93	92	290
H小学校	166	169	153	488
I小学校	64	59	58	181
J小学校	58	64	55	177
配付数合計	393	385	358	1136
回収数合計	287	275	244	806
回収率	73.03%	71.43%	68.16%	70.95%

表2-3 保育者・教師用質問紙の配付数および回収数

		配付数	回収数
幼稚園教員	年中担任	18	18
	年長担任	17	17
	1年担任	13	12
小学校教員	2年担任	12	12
	3年担任	11	10
	合計	71	69

## ② 調査協力者（保護者）

保護者の調査協力者は計1554名であり、その内訳は母親1477名、父親63名、その他3名、不明11名であった。回収率は全体で74.11%であり、幼稚園で77.84%、小学校で70.95%であった。小学校に比べ幼稚園の方が、回収率がやや高い結果となった。回収率の違いについては、幼稚園に子どもを通わせる（母）親は、小学校に子どもを通わせる（母）親に比べて専業主婦である割合が高く、常勤で働く割合が低いこと（表3-6参照）が示されており、このことがひとつの要因であると考えられる。

次に、年齢について回答があった者を対象に、母親および父親の年齢の平均および標準偏差を表2-4にまとめた。幼稚園の保護者に比べて、小学校の保護者の方が2～3歳年齢が高いこと、母親より父親の方が年齢の高い傾向にあることがわかった。

表2-4 保護者の平均年齢および標準偏差

	母親			父親		
	全体	幼稚園	小学校	全体	幼稚園	小学校
回答者数	1315	649	666	53	23	30
平均	38.33	37.17	39.46	42.26	40.43	43.67
標準偏差	4.49	4.41	4.29	6.16	5.03	6.66
範囲	24-52	24-51	27-52	33-63	34-55	33-63

## ③ 調査協力者（保育者・教師）

69名の保育者および教師から回答を得た。内訳は幼稚園保育者35名、小学校教師34名であった。

保育者・教師の性別の内訳、年齢および保育・教育歴の平均・標準偏差を表2-5にまとめた。小学校に比べて、幼稚園では女性が多く、平均年齢は10歳程低いことが見てとれる。保育・教育歴に関しても幼稚園の方が平均で5年程度短く、小学校の方が幼稚園よりベテランの先生がやや多い傾向にあった。

表2-5 保育者・教員の年齢および保育・教育歴の平均・標準偏差

		全体	幼稚園	小学校
回答者数		69	35	34
性別	男性	13	0	13
	女性	56	35	21
年齢 (無回答:2名)	平均	34.25	29.18	39.18
	標準偏差	10.14	8.55	11.68
	範囲	20-61	20-61	22-59
保育・教育歴 (無回答:1名)	平均	10.08	7.49	12.82
	標準偏差	9.29	7.47	11.22
	範囲	0-39	1-39	0-37

#### ④ 分析対象者

保護者からの回答と保育者・教師からの回答を照らし合わせることができたデータで、かつ子どもの生まれ年に関する保護者回答が正しかった母親データに絞り、1366名を最終的な分析対象者とした。分析対象となった子どもの学年と性別による内訳を表2-6に示す。

ただし一部の分析では、保護者と保育者・教師の回答を照らし合わせる前のデータを使用した。

表2-6 子どもの学年と性別による内訳

	性別		合計
	男児	女児	
1年	125	128	253
2年	110	113	223
3年	115	99	214
年中	154	170	324
年長	176	176	352
合計	680	686	1366

### (2) 調査手続き

#### ① 保護者への調査

幼稚園および小学校の対象幼児・児童の保護者に対し、調査票をクラス担任を通して配付した。調査票は糊付きの封筒に入れられていた。調査票の表紙には、依頼文とともに、無記名式の調査であること、回答は統計的に処理されることが明記された。回答終了後は、当該調査票を元の封筒に入れ厳封した上で、子どもを通して担任に提出するよう依頼した。

#### ② 保育者・教師への調査

幼稚園および小学校の対象幼児・児童の担任に対して、1学級（クラス）ごとに調査票を配付した。調査票は糊付きの封筒に入れられていた。調査票の表紙には、依頼文とともに、無記名式の調査であること、回答は統計的に処理されることが明記された。各担任には、担当幼児あるいは児童一人一人について個別に質問項目に回答してもらった。回答終了後は、当該調査票を元の封筒に入れ厳封した上で、園長または校長に提出するよう依頼した。

### (3) 調査実施期間

保護者への調査は2015（平成27）年6月～7月に実施した。保育者および教師への調査は、2015（平成27）年7月～8月の夏休み期間中に実施した。

#### (4) 調査内容

##### ①保護者への調査内容

以下の6つの概念についてそれぞれ回答を求めた。

##### 1) 育児感情

育児について肯定的または否定的な感情をどの程度感じているかについて尋ねた。荒牧・無藤(2008)によって作成された「育児への否定的・肯定的感情尺度」より、「育ちへの不安感」「育児への束縛による負担感」「育児への肯定感」の3つの下位尺度から4項目ずつ項目を抜粋して使用した。「育ちへの不安感」は、わが子の発達や成長について不安に思う気持ちを、「育児への束縛による負担感」は、育児によって束縛され負担に思う気持ちを、「育児への肯定感」は、子育てを通じて喜びを感じ、子どもの成長を楽しむ気持ちについて尋ねている。質問内容は表2-7の通りである。回答は「1:まったくない」, 「2:あまりない」, 「3:ときどきある」, 「4:よくある」の4段階の中からもっともよく当てはまる数字1つを選択してもらった。実施する際は、子育てにおける自己効力感の項目とともに順番をランダムに入れ替えて実施した。

表2-7 育児感情に関する質問項目

育児への束縛による負担感
毎日子育ての繰り返しばかりで、社会との絆が切れてしまうように感じる。
自分ひとりだけで子育てしているような気がする。
子どもに時間を取られて、自分のやりたいことができず、イライラする。
子どもを育てるために我慢ばかりしている。
育ちへの不安感
園や学校で、自分の子どもが他の子どもに遅れないでついていけるか不安になる。
他の子どもにはできて、自分の子どもにはできないことが多いと感じる。
同年齢の子どもと比べて、自分の子どもは幼いと感じる。
他の子どもと比べて、自分の子どもの発達が遅れているのではないかと思う。
肯定感
子どもを育てるのは楽しいと思う。
子どもを育てることは、有意義ですばらしいことだと思う。
子どもの成長が楽しみだと感じる。
子どもを育てることによって、自分も成長しているのだと感じる。

##### 2) 子育てにおける自己効力感

子育てをうまく行うことができているという自信について尋ねた。質問項目は本調査で新たに作成し、全4項目であった。質問内容は表2-8の通りである。回答は「1:まったくない」, 「2:あまりない」, 「3:ときどきある」, 「4:よくある」の4段階の中からもっともよく当てはまる数字1つを選択してもらった。実施する際は、育児感情の項目とともに順番をランダムに入れ替えて実施した。

表 2-8 子育てにおける自己効力感に関する質問項目

子どもとうまくかかわれていると感じる。  
 子育てで、困ったことがあっても何とかかなると思う。  
 子育てで私でなければできないことがあると思う。  
 子どもを育てることは苦手だと感じる。(R)

注) 文末に(R)と記載した項目は逆転項目である。

### 3) 固定的な発達観

子どもの能力や個性について、こうした基本的資質は変わらないものだと固定的に捉えているか、それとも努力や教育によって変化するものだと変動的に捉えているかについて尋ねた。Dweck (1999) の「知能観尺度」を参考に作成された「発達観尺度」(溝川, 2014) を使用した。子どもの能力、個性について各 4 項目、計 8 項目で尋ね、溝川 (2014) に従い質問文の一部に下線を引いて提示した。そして、下線部分に注目して回答するよう教示した。質問内容は表 2-9 の通りである。回答は「1: まったくそう思わない」、「2: そう思わない」、「3: どちらでもない」、「4: そう思う」、「5: 強くそう思う」の 5 段階の中からもっともよく当てはまる数字 1 つを選択してもらった。

表 2-9 固定的な発達観に関する質問項目

#### 能力に関する発達観

子どもの持つ能力は、それぞれ一定であり、子ども自身の努力によっては、変わらないものであると思う。  
 子どもの持つ能力は、親の働きかけによって、大きく変化すると思う。(R)  
 子どもの能力は、子どもが自分で変えていくことのできるものだと思う。(R)  
 子どもは、新しいことを学ぶことはできるが、子育てを通じて基本的な能力を変えることはできないと思う。

#### 個性に関する発達観

子どもの持つ個性は、子ども自身が努力しても、本当の意味では変えることができないと思う。  
 子どもの個性は、子どもが自分で変えていくことのできるものだと思う。(R)  
 子どもの個性は、その子の一部であって、親の働きかけによっても大きく変えることができないと思う。  
 子どもの個性は、子育てを通じていつでも変えることができると思う。(R)

注) 文末に(R)と記載した項目は逆転項目である。

### 4) 自尊感情

保護者が自分自身を肯定的に捉えているのか、それとも否定的に捉えているのかについて尋ねた。桜井 (2000) の「ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版」の全 10 項目を使用した。質問内容は表 2-10 の通りである。回答は「1: いいえ」、「2: どちらかといえばいいえ」、「3: どちらかといえばはい」、「4: はい」の 4 段階の中からもっともよく当てはまる数字 1 つを選択してもらった。

表 2-10 自尊感情に関する質問項目

私は自分に満足している。  
 私は自分がだめな人間だと思う。(R)  
 私は自分には見どころがあると思う。  
 私は、たいいていの人がやれる程度には物事ができる。  
 私には得意に思うことがない。(R)  
 私は自分が役立たずだと感じる。(R)  
 私は自分が、少なくとも他人と同じくらいの価値のある人間だと思う。  
 もう少し自分を尊敬できたらと思う。(R)  
 自分を失敗者だと思いがちである。(R)  
 私は自分に対して、前向きな態度をとっている。

注) 文末に(R)と記載した項目は逆転項目である。

## 5) ポジティブな養育行動

子どもに対して肯定的な養育行動をどの程度行っているかについて、本調査で新たに作成し実施した。項目を作成する際には、人間の動機づけに関する「自己決定理論」（例えば、Ryan & Deci, 2000）における関係性支援、有能感支援、自律性支援の考え方を参考にした。全22項目であった。質問内容は表2-11の通りである。回答は「1：まったくない」、「2：あまりない」、「3：ときどきある」、「4：よくある」の4段階の中からもっともよく当てはまる数字1つを選択してもらった。実施する際は、ネガティブな養育行動の項目とともに順番をランダムに入れ替えて実施した。

表2-11 ポジティブな養育行動に関する質問項目

---

子どもが自分から進んで物事に取り組めるように見守る。
子どもが何かを選んだり決めたりするとき、できるだけ子どもに任せる。
子どもが自分で決めたことは尊重する。
子ども自身のごことは子どもが自分で決めるように励ます。
子どもが自分で考えて行動できるように助言する。
子どものことを決めるときは、どれがよいのか子どもの意見を聞く。
子どもが自分で決めたことは、最後まで取り組めるように支援する。
子どもが自分ひとりで決められないようなことには、選択肢を与える。
子どもの能力が伸びるように応援する。
子どもに自信がなさそうなときは、あなたならできると励ます。
子どもがうまくできないときにはヒントを与える。
子どもが難しいことに挑戦するときは、できそうなところからやるように促す。
子どもが失敗したときは、次にうまくいくようにアドバイスをする。
子どもの得意なことを伸ばせるように働きかける。
子どもが、「自分はできる」という自信をもてるように、手助けする。
子どもがしていることに興味を持って言葉をかける。
子どもと話したり遊んだりする。
子どもが悲しんでいるときには、そばにいてあげる。
子どもに好きだという気持ちを伝える。
子どもに元気がないときは、子どもの気持ちが和らぐように接する。
忙しくても、園・学校であった話を聞く時間をとる。
子どもが話し始めたら、まずは最後まで聞いてあげる。

---

## 6) ネガティブな養育行動

子どもに対して否定的な養育行動をどの程度行っているかについて尋ねた。三鈷（2008）によって作成された「養育スキル尺度」より「感情的叱責」「物的報酬」「спанキング」の3つの下位尺度から項目を一部抜粋し、修正して使用した。「感情的叱責」は感情の浮き沈みによって子どもに対する態度が変化したり、感情的になって子どもを叱ったりする行動であり、「物的報酬」は子どもの良い行いに対してごほうびを与える行動であり、「спанキング」は罰として子どもの体をたたく行動である。項目数に関しては「感情的叱責」



で4項目、「物的報酬」および「スパンキング」で各2項目であった。質問内容は表2-12の通りである。回答は「1:まったくない」、「2:あまりない」、「3:ときどきある」、「4:よくある」の4段階の中からもっともよく当てはまる数字1つを選択してもらった。実施する際は、ポジティブな養育行動の項目とともに順番をランダムに入れ替えて実施した。

表2-12 ネガティブな養育行動に関する質問項目

感情的叱責
子どもが悪いことをしたとき、自分の気分によってしかる程度が変わる。
自分のきげんが悪いと、普段よりきつくしかる。
子どもが悪いことをすると、感情的にしかる。
子どもが言うことをきかないと、大声でどなる。
スパンキング
子どもが言うことをきかないと、子どもの手や足をびしゃりとたたく。
子どもが悪いことをすると、子どもの体をびしゃりとたたく。
物的報酬
子どもが良いことをしたら、ごほうびに何かをあげる。
子どもが嫌いなことでもがんばっていたら、ごほうびとして何かを与える。

#### 7) その他の質問内容

その他にも、子どもの性別、生年月日、兄弟の有無と人数、回答者と子どもの関係、回答者の年齢について尋ねた。また、子どもと同居している人、子育てによく関わっている人、回答者の職業についても尋ねた。これらについての具体的な質問項目は、巻末の資料を参照していただきたい。

#### ②保育者および教師への調査内容

幼児・児童の学ぶ意欲および成績についてそれぞれ回答を求めた。

##### 1) 学ぶ意欲

各幼児・児童の「拡散的好奇心」「特殊的好奇心」「独立達成」「挑戦」「粘り強さ」「自己効力感」の6つの側面について尋ねた。「拡散的好奇心」と「特殊的好奇心」は、稲垣(1977)によって作成された「子どもの好奇心に対する行動的基準(教師評定用)」を参考にしながら新たに作成した。稲垣(1977)によると、「拡散的好奇心」は退屈ないし情報への飢えから生ずるもので、はっきりした方向性をもたず幅広く情報を求める好奇心と定義されている。一方、「特殊的好奇心」は特定の情報(とくに喚起された不調和の低減に寄与する情報)を求める好奇心と定義されている。好奇心に関しては、これらの定義を反映し項目を作成した。

その他の概念については、本調査で新たに項目を作成した。「独立達成」は一人で考え、やり遂げようとする傾向とした。「挑戦」は好奇心と区別するため、難しいことに挑む姿勢とした。「粘り強さ」は粘り強く物事に取り組む傾向とした。「自己効力感」は自分に自信を持っており、やればできると考えている傾向とした。「挑戦」および「粘り強さ」

については各3項目、その他については各4項目を作成し尋ねた。質問内容は表2-13の通りである。回答は「1：まったくあてはまらない」、「2：あまりあてはまらない」、「3：少しあてはまる」、「4：よくあてはまる」の4段階の中から、幼児・児童一人一人についてもっともよく当てはまる数字1つを回答してもらった。実施する際は、順番をランダムに入れ替えて実施した。

表2-13 学ぶ意欲に関する質問項目

---

拡散的好奇心

新しいことは何でもやってみたがる。  
何か変わったことやおもしろいことはないかと、見つけようとしている。  
はじめてみるものを見つけるとすぐそばに来て、「みせて！みせて！」と言う。  
何でも知りたがる方だ。

---

特殊的好奇心

気になることがあると、納得のいくまで質問して、詳しく知りたがる。  
興味を持つと、触ってみるなどしてさらに詳しく知ろうとする。  
1つのことを深く追求する方だ。  
あまり疑問を持たないで、情報をそのまま受け入れる。(R)

---

独立達成

自分の力でできることは、できる限り一人でやり遂げようとする。  
自分で考えて、自分なりの答えを出すことができる。  
自分でできることも、誰かにやってもらおうとする。(R)  
決めたり選んだりしなければいけないときに、誰かに決めて欲しいという気持ちが強い。(R)

---

挑戦

少し難しそうなことでも、挑戦してみようとする。  
簡単にはできないものを提示すると、恐れるよりも興味を持って取り組もうとする。  
難しいことよりも、簡単にできそうなことの方が好きだ。(R)

---

粘り強さ

始めたことは、最後までやり遂げる方だ。  
難しいことに取り組んでいる時にも、すぐにはあきらめない。  
うまくできないことがわかると、すぐにあきらめてしまう。(R)

---

自己効力感

がんばってやればうまくできていると思うようだ。  
何かに取り組む際には自信をもって取り組むことができる。  
自信がなく、苦手意識が強い。(R)  
何をやってもうまくいかないほうだと思っているようだ。(R)

---

注)文末に(R)と記載した項目は逆転項目である。

## 2) 成績

保育者においては、「言語理解」「数量理解」「運動」について、教師においては、「国語」「算数」「体育」について、幼児・児童一人一人がどの程度できるかについて尋ねた。回答は「1：できない」、「2：あまりできない」、「3：だいたいできる」、「4：よくでき

る」の4段階の中から、各幼児・児童にもっともよく当てはまる数字1つを回答してもらった。

### 3) その他の質問内容

その他にも、回答者の性別、教育歴(保育歴)、各幼児または児童の性別について尋ねた。これらについての具体的な質問項目は、巻末の資料を参照していただきたい。

(冨田久枝・倉住友恵)

## 3章 調査の結果と考察

## 1 保護者編

幼稚園および小学校に子どもを通わせる母親から、育児感情を測定する4つの下位尺度（育児への肯定感、育ちへの不安感、育児への束縛による負担感、子育てにおける自己効力感）、ネガティブな養育行動を測定する3つの下位尺度（物的報酬、スパンキング、感情的叱責）、さらにポジティブな養育行動、能力と個性に関する（固定的な）発達観、自尊感情について回答を得た。

### （1）各尺度のまとめりについて

ポジティブな養育行動は、今回独自に作成したため、統計的手法を用いて項目のまとめりについて確認したところ、6つの下位尺度（主体性育成、意思尊重、自信育成、助言、関与、温かさ）に分類された。その結果を表3-1に示す。「主体性育成」には子どもが主体的に行動できるよう促す行動が、「意思尊重」には子どもの主体性を高められるよう支援する行動が分類された。「自信育成」には子どもが自信を持てるよう支援する行動が、「助言」には成功できるようアドバイスやヒントを与えて子どもを支援する行動が分類された。「関与」には子どもと関わる時間をとりコミュニケーションをとる行動が、「温かさ」には子どもを思いやり愛情を伝える行動が分類された。

表3-1 ポジティブな養育行動尺度の6分類

主体性育成	子どもの得意なことを伸ばせるように働きかける。 子どもが自分から進んで物事に取り組めるように見守る。 子どもが自分で決めたことは尊重する。
意思尊重	子どもが何かを選んだり決めたりするとき、できるだけ子どもに任せる。 子どものことを決めるときは、どれがよいのか子どもの意見を聞く。 子ども自身のことは子どもが自分で決めるように励ます。
自信育成	子どもが、「自分はできる」という自信をもてるように、手助けする。 子どもに自信がなさそうなときは、あなたならできると励ます。 子どもの能力が伸びるように応援する。
助言	子どもが失敗したときは、次こうまくいくようにアドバイスをする。 子どもがうまくできないときにはヒントを与える。 子どもが自分で考えて行動できるように助言する。
関与	忙しくても、園・学校であつた話を聞く時間をとる。 子どもが話し始めたら、まずは最後まで聞いてあげる。 子どもと話したり遊んだりする。
温かさ	子どもが悲しんでいるときには、そばにいてあげる。 子どもに好きだという気持ちを伝える。 子どもに元気がないときは、子どもの気持ちが和らぐように接する。

さらに上記のポジティブな養育行動の6下位尺度も含めたすべての尺度について、下位尺度ごとに項目のまとまりの良さについて統計的に確認したところ、すべての下位尺度で一定のまとまりの良さが確認された。

(2) 母親の育児感情、養育行動、固定的な発達観、自尊感情における幼少差および男女差  
まず下位尺度ごとに平均を算出した。平均は各下位尺度の得点を合計し項目数で割ったものであり、「固定的な発達観」は1～5まで、その他の下位尺度は1～4までの値を取りうる。全体の記述統計量、幼小および男女を比較した記述統計量を表3-2、3-3、3-4にそれぞれ示す。

表3-2によると、「固定的な発達観」は3点が「どちらでもない」の回答となり理論的に中央の値となるが、能力に関する平均は1.95、個性に関する平均は2.75と、その値よりも低かった。これより全体の傾向として、発達に関する親の考え方は変動的なものであると考えられる。特に能力に関する発達観は最大値も3.75であり、能力に関する発達に関しては特に変動的に捉えられているものといえよう。

また、固定的な発達観以外の下位尺度では「どちらでもない」に相当する理論的な中央の値は2.5点となる。平均が特に高かったのは、「育児への肯定感」およびポジティブな養育行動の各下位尺度、「子育てにおける自己効力感」であり3点を上回っている。全体の傾向として、子育てを通して充実感を感じたり、子育てをうまくできると感じたりすることが多く、またポジティブな養育行動も多いということである。

その他にも、「自尊感情」「物的報酬」「感情的叱責」が2.5点をやや上回っており、得点が2.5点より低い者もいたが、全体的な傾向としてはやや高い傾向にあるといえる。ただし、「物的報酬」と「感情的叱責」はその他の変数と異なりネガティブな変数であり、子どもにごほうびとして物を与えたり、感情の浮き沈みによって子どもに対する態度を変化させ感情的になって子どもを叱ったりする行動が比較的多いということである。

一方、「育ちへの不安感」「育児への束縛による負担感」「スパンキング」の平均は2.5点をやや下回っていた。得点が2.5点を上回る者もいたが、全体としては低かったといえる。育ちへの不安を感じたり、育児によって束縛され負担を感じたり、さらにはスパンキングをしたりするといった感情や行動は、それほど多くはないのである。

幼稚園と小学校の差を比較したところ(表3-3)、「育ちへの不安感」は、幼稚園児の母親より小学生の母親の方が得点が高かった。子どもは小学校にあがると幼稚園よりも集団で行動する時間が長くなり、また毎学期成績がつくようになるため、小学生の母親は他の子どもとわが子を比較する機会が増えると考えられる。さらに小学校では、時間割やカリキュラムなどによって学校生活が強く規制されるため、学校のペースについていくことが難しい子どもも出現するものといえる。おもに以上のような2つの理由より、わが子の育ちに対する不安が幼稚園より小学校の母親において高くなったものと考えられる。

一方で、「物的報酬」「関与」「温かさ」に関しては、小学生の母親より幼稚園児の母親の方が得点が高かった。幼児期には、子どもの行動を言葉で制止することができないこと

もあるため、ごほうびを与えることで問題解決を目指してしまうことも生じると考えられる。また、「関与」や「温かさ」といった子どもとコミュニケーションをとり子どもを思いやるという交流は、小学生の母親においても得点は高かったものの、幼稚園児の母親でより高かった。今回の調査では、幼児に関しては幼稚園のみで調査を実施していたため、小学生に比べ幼児の方が園で過ごす時間が短く、母親と子どもが共に過ごす時間が長かったものと考えられる。そのために幼稚園の方が特に得点が高くなったものと推察される。

次に、男児と女児の差を比較したところ（表3-4）、「育ちへの不安感」と「スパンキング」において、女児の母親より男児の母親の方が得点が高かった。調査対象となった幼児期、児童期前半は一般に女児の方が男児よりも発達が早いため、女児を持つ母親は発達に関する悩みをもちにくい、男児を持つ母親は発達の遅さという点で悩みをもちやすいために得点が高くなったものと考えられる。また「スパンキング」に関しては、男児は女児に比べ活発であり、攻撃性も高いことが知られているため、男児の母親は女児の母親よりも、スパンキングを用いてしまうことが多いものと考えられる。

表3-2 育児感情および養育行動尺度、固定的な発達観、自尊感情の記述統計量（全体）

	人数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
育児感情					
育ちへの不安感	1356	1.00	4.00	2.25	0.70
育児への肯定感	1348	1.25	4.00	3.60	0.44
育児への束縛による負担感	1358	1.00	4.00	2.33	0.59
子育てにおける自己効力感	1346	1.50	4.00	3.00	0.49
ネガティブな養育行動					
物的報酬	1360	1.00	4.00	2.73	0.66
スパンキング	1358	1.00	4.00	2.28	0.81
感情的叱責	1354	1.00	4.00	2.85	0.54
ポジティブな養育行動					
主体性育成	1357	1.33	4.00	3.31	0.45
意思尊重	1352	2.00	4.00	3.34	0.44
自信育成	1355	1.67	4.00	3.47	0.46
助言	1358	1.33	4.00	3.35	0.47
関与	1358	2.00	4.00	3.54	0.44
温かさ	1359	2.00	4.00	3.53	0.44
固定的な発達観					
能力	1356	1.00	3.75	1.95	0.49
個性	1354	1.00	5.00	2.75	0.69
自尊感情	1326	1.00	4.00	2.76	0.58

表3-3 育児感情および養育行動尺度、固定的な発達観、自尊感情の記述統計量（幼小）

	幼稚園			小学校			幼少差
	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差	
育児感情							
育ちへの不安感	671	2.20	0.71	685	2.31	0.68	幼<小
育児への肯定感	667	3.62	0.43	681	3.59	0.45	
育児への束縛による負担感	671	2.36	0.58	687	2.31	0.59	
子育てにおける自己効力感	665	3.02	0.50	681	2.99	0.49	
ネガティブな養育行動							
物的報酬	674	2.79	0.65	686	2.68	0.67	小<幼
спанキング	673	2.26	0.81	685	2.30	0.80	
感情的叱責	670	2.84	0.53	684	2.85	0.55	
ポジティブな養育行動							
主体性育成	673	3.33	0.46	684	3.29	0.43	
意思尊重	670	3.35	0.46	682	3.33	0.43	
自信育成	670	3.50	0.47	685	3.45	0.46	
助言	673	3.37	0.49	685	3.33	0.45	
関与	674	3.59	0.43	684	3.49	0.45	小<幼
温かさ	673	3.59	0.42	686	3.47	0.45	小<幼
固定的な発達観							
能力	672	1.95	0.49	684	1.96	0.48	
個性	670	2.78	0.70	684	2.72	0.67	
自尊感情	653	2.77	0.58	673	2.76	0.59	

表3-4 育児感情および養育行動尺度、固定的な発達観、自尊感情の記述統計量（男女）

	男子			女子			男女差
	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差	
育児感情							
育ちへの不安感	675	2.36	0.72	681	2.15	0.66	女<男
育児への肯定感	670	3.59	0.44	678	3.61	0.45	
育児への束縛による負担感	675	2.32	0.58	683	2.34	0.59	
子育てにおける自己効力感	669	3.01	0.49	677	2.99	0.49	
ネガティブな養育行動							
物的報酬	677	2.74	0.66	683	2.73	0.66	
спанキング	675	2.36	0.79	683	2.20	0.81	女<男
感情的叱責	675	2.85	0.53	679	2.84	0.55	
ポジティブな養育行動							
主体性育成	674	3.29	0.44	683	3.33	0.46	
意思尊重	674	3.32	0.44	678	3.35	0.44	
自信育成	673	3.47	0.46	682	3.47	0.47	
助言	676	3.35	0.46	682	3.35	0.48	
関与	674	3.53	0.44	684	3.54	0.45	
温かさ	675	3.52	0.42	684	3.53	0.45	
固定的な発達観							
能力	677	1.96	0.48	679	1.95	0.49	
個性	677	2.76	0.70	677	2.74	0.67	
自尊感情	654	2.78	0.57	672	2.75	0.60	



### (3) 母親の子育て環境について

回答した母親の子育て環境について理解するため、「子どもと同居している大人」「普段家庭で子育てによく関わっている大人」「回答した保護者の職業」について質問した。

#### ①子どもと同居している大人の内訳と合計人数

子どもと同居している大人について、該当する項目を○で囲むように求めた。その結果を表3-1に示す。父親の数が母親の数を若干上回っているが、回答者である母親が同居していないということは考えにくいことから、自分以外の大人を回答するものと解釈し、母親の項目を○で囲まなかった者がいたのではないかと考えられる。祖父母との同居率は、父方、母方の祖父母のいずれも5%を下回っており、核家族が大部分を占めているといえよう。

表3-1 子どもと同居している大人の内訳

同居している大人	父	母	父方の祖父	父方の祖母	母方の祖父	母方の祖母	その他
人数	1264	1234	40	57	35	57	52
回答者数(1366名)に占める割合(%)	92.5	90.3	2.9	4.2	2.6	4.2	3.8

同じデータを元に、子どもと同居している大人の人数を算出した結果を表3-2に示す。大人の人数が2名の家庭が全体の76.5%を占めており、この結果もやはり核家族の多さを示しているといえよう。

表3-2 子どもと同居している大人の合計

同居している大人の人数	0	1	2	3	4	5	6	合計	平均(標準偏差)
度数	24	148	1045	98	47	4	0	1366	2.01(.64)
割合(%)	1.8	10.8	76.5	7.2	3.4	0.3	0.0	100.0	

#### ②子どもと同居している大人の存在が母親の育児感情・養育行動に与える影響

表3-2のデータを元に、同居している大人の人数が、母親の育児感情・養育行動にどのような影響を及ぼすのかについて、統計的手法を用いて分析した。なお、同居している大人の人数が0というのは、現実的に考えられないため、無回答として分析から除外した。

その結果、育児感情である「育児への束縛による負担感」は、同居人数が1名あるいは2名の家庭と比べて、4名の家庭の方が低いことが分かった。また、「子育てにおける自己効力感」は、同居人数が1名あるいは5名の家庭と比べて、4名の家庭の方が高いことが分かった。このことから、大人が4名同居している家庭（おそらく3世代世帯）では、母親の育児への負担感が軽く、ポジティブに育児に臨み、自己効力感が高い傾向にあることが考えられる。

さらに、具体的に誰と同居していることが特に影響するのかについて調べた。その結果、「育児への束縛による負担感」を軽くするのは、父方もしくは母方の祖母との同居であった。かつて育児を経験した祖母の助言や具体的な援助が、育児の負担を減らしていると考えられる。また、「子育てにおける自己効力感」を高めるのは、母方の祖母の同居であった。

母親にとって実の母親である母方の祖母は、子育てに関して母親と似通った方法や価値観を持ちやすく、母親の子育てを理解してくれる機会も多いため、結果として自分がしている育児で子どもはきちんと育つという自己効力感を得やすいのであろう。

### ③ 普段家庭で子育てによく関わっている大人の内訳と合計人数

普段家庭で子育てによく関わっている大人について、該当する項目を○で囲むように求めた。その結果を表3-3に示す。母親が全体の92.9%、次いで父親が71.4%、祖父母の中では、母方の祖母が最も多く23.1%であった。父親は、表3-1で264名同居していると回答が得られたにも関わらず、子育てに関わっている人数は975名と減少しており、同居していても子育てに関わっていると母親から見なされていない場合があるようである。一方、父方、母方いずれの祖父母も同居している人数に比べ、こちらの人数は多くなっており、同居していなくても子育てにしばしば関わっている場合があるようである。特に、母親にとっては、自分の実の母親からの子育て支援が最も受けやすいようである。

表3-3 普段家庭で子育てによく関わっている大人の内訳

子育てによく関わっている大人	父	母	父方の祖父	父方の祖母	母方の祖父	母方の祖母	その他
人数	975	1269	69	127	153	315	19
回答者数(1366名)に占める割合(%)	71.4	92.9	5.1	9.3	11.2	23.1	1.4

同じデータをもとに、普段家庭で子育てによく関わっている大人の人数を算出した結果を表3-4に示す。最も多い人数は2名であり、全体の約半数(49.4%)を占めていた。次いで、1名、3名という結果であった。表3-3の結果と合わせて考えると、母親のみ、もしくは母親と父親の2名で子育てをしている家庭が大部分であることがうかがわれる。その一方で、3%に満たない少数ではあるものの、5~6名の大人が日頃から子育てに関わっている家庭もあることが分かった。

表3-4 普段家庭で子育てによく関わっている大人の合計

子育てによく関わっている大人の人数	0	1	2	3	4	5	6	合計	平均(標準偏差)
度数	14	329	675	188	128	20	12	1366	2.14(1.02)
割合(%)	1.0	24.1	49.4	13.8	9.4	1.5	0.9	100.0	

### ④ 普段家庭で子育てによく関わっている大人の存在が母親の育児感情・養育行動に与える影響

表3-4のデータを元に、普段家庭で子育てによく関わっている大人の人数が、母親の育児感情・養育行動にどのような影響を及ぼすのかについて、統計的手法を用いて分析した。なお、普段子育てによく関わっている大人の人数が0というのは、現実的に考えられないため、無回答として分析から除外した。

第一に、普段子育てによく関わっている大人の人数の影響についてであるが、感情面で

は、「育児への肯定感」「子育てにおける自己効力感」「育児への束縛による負担感」という3つの側面において、関わる大人の人数の多い方が良い影響があることが示された。行動面では、望ましい養育行動とされる「自信育成」「関与」「温かさ」という3つの側面において、よく関わっている大人が1名と回答した母親よりも、それ以上と答えた母親の方が多く行っていることが示された。このことから、母親以外の大人も子育てによく関わっていると母親自身が感じていることが、子育てに関する感情、行動いずれの側面においても、良い影響を及ぼすと考えられる。

加えて、具体的に誰が子育てによく関わっていることが特に影響するのかについて調べた。最も影響していたのは、父親の関わりの有無であった。父親が子育てによく関わっている場合、感情面では、「育ちへの不安感」「育児への束縛による負担感」が低い一方で、「育児への肯定感」「子育てにおける自己効力感」が高いこと、行動面では、望ましい養育行動である「自信育成」「関与」「温かさ」を多く行い、望ましくない養育行動である「スパンキング」が少ないことが示された。実際に父親がどの程度子育てに関わっているのかは家庭によって様々であると思われるが、その質や量にかかわらず、母親が「父親がよく子育てに関わっている」と感じられることが母親のポジティブな子育てに影響しているように考えられる。

父親以外には、母方の祖父母の関わりがあることも、ほぼ同様のポジティブな影響を示した。しかし、その一方で、父方および母方の祖母の関わりは、子どもの意欲や学業成績に良くないとされる「物的報酬」を与える頻度を増やすこと、加えて、父方の祖母の関わりは、同じく良くないとされる「スパンキング」を増やすことが示唆された。祖母の存在が、ご褒美やスパンキングを与えてでも子どもをコントロールしようとする意識を母親に生じさせるのであろうか。その背景にある母親の心理については推測するしかないが、こうした望ましくない影響があることも見逃してはならないであろう。

#### ⑤父親の同居および子育て参加の有無が母親の育児感情・養育行動に与える影響

④において、特に父親の子育てに対する関わりの有無の影響が大きかったことから、より詳細な分析を行った。父親が子どもと同居しているかどうか、および普段子育てによく関わっているかどうかを母親の育児感情・養育行動にどのような影響を与えているのかについて検討するため、同居および子育て参加の有無によって4つのグループに分類した。分類した4つのグループ名と各グループの人数は表3-5の通りである。

父親が子どもと同居しており、かつ子育てにも参加している「子育て参加」グループが最も多く、全体の71.4%を占める895名であった。一方で、同居していても子育てをしていない「子育て不参加」グループが277名いた。

統計的分析によって、この4つのグループ間で、母親の育児感情・養育行動に違いがあるのかについて検討した。結果は、④で示されたものと同様、父親が子育てに参加していることが、母親の育児感情と養育行動のいずれにおいても最も望ましい影響を及ぼすことが確認された。さらに、新たに得られた結果として、「子育て不参加」グループの母親の方

が「父親不在」グループの母親よりも平均して「育児への束縛による負担感」が高く、「感情的叱責」を多く行っていることが示された。すなわち、父親が同居しているにもかかわらず子育てを行っていない家庭の方が、もともと父親が不在の家庭よりも、母親にとって、育児への負担を感じさせ、子どもへの感情的な叱責を引き起こす可能性があると考えられる。

近年、父親の育児参加の必要性が声高に唱えられ、「イクメン」と呼ばれるような積極的に育児に参加する父親の姿がメディア等で取り上げられることも増えている。そうした社会的風潮の中においては、「本来子育てをすべき父親が子育てをしていない」という状況は、母親にとって大きなストレスや負担感を感じさせるのかもしれない。

表 3-5 父親の同居および子育て参加の有無による分類

グループ名	同居		別居	
	子育て参加	子育て不参加	子育て参加	子育て不参加
人数	895	277	17	65
回答者数(1254名)に占める割合(%)	71.4	22.1	1.4	5.2

#### ⑥母親の職業

回答した母親自身の職業について、選択肢を○で囲むよう回答を求めた。その結果を幼稚園・小学校別にまとめたものを表 3-6 に示す。幼稚園では、専業主婦が487名と最も多く69.3%を占めていたが、小学校になるとその割合は44.0%に減り、常勤とパート・アルバイトの割合がそれぞれ24.4%、25.2%と増加した。これは、子どもの成長とともに、社会で働く母親が増えることの表れと見てとることもできるが、本調査では、保育園で調査を行っていないのに対し、小学校で回答した保護者の中には、幼児期から働いて子どもを保育園に預けていた者も含まれているが故に生じた数値の差である可能性もある。

表 3-6 母親の職業

職業	常勤	パート・アルバイト	専業主婦	自営業・自由業	その他	無回答	合計
度数	59	118	487	27	5	7	703
割合(%)	8.4	16.8	69.3	3.8	0.7	1.0	100.0
度数	176	182	318	35	5	6	722
割合(%)	24.4	25.2	44.0	4.8	0.7	0.8	100.0

次に、母親の職業が、母親の育児感情・養育行動とどのような関係があるのかについて、統計的手法を用いて分析した。なお、「その他」は内容が様々であるため、「無回答」と同様に分析から除外した。

その結果、育児感情においては、「育児への束縛による負担感」は、幼稚園、小学校のいずれにおいても、常勤より専業主婦の方が強く感じている傾向にあることが示された。一日のうちで、子どもと過ごす時間がより長い専業主婦の方が、束縛感を感じやすいということであろう。また、幼稚園では、パート・アルバイトの方が常勤よりも負担感を感じていることも示された。

養育行動においては、幼稚園においてのみ差がみられ、専業主婦の方がパート・アルバイトよりも「関与」を多くしていること、パート・アルバイトおよび専業主婦の方が自営業・自由業よりも「スパンキング」を多くしている傾向にあることが明らかになった。

今回の調査が実施された東京都は、「国民生活基礎調査(平成25年)」(厚生労働省, 2014)によれば、全国で最も3世代世帯の少ない都道府県であるため、祖父母との同居率の低さ等に関しては、一般的な数値とは言えない可能性がある。しかし、母親が子育てをする上で、祖父母と同居し、父親や祖父母と一緒に子育てに参加する環境が望ましい、とはいえるように思われる。その一方で、祖母の子育てへの関わりが、母親にネガティブな養育行動を引き起こす可能性もあることも覚えておきたい。また、専業主婦が育児への束縛による負担感を感じやすいことも、やはりネガティブな養育行動を引き起こす可能性がある点で、注意ならびに子育て支援等の配慮が必要である。

## 2 子ども編

幼稚園の保育者および小学校の教師から、担任するクラスの子ども一人ひとりについて、学ぶ意欲を測定する6つの下位尺度(拡散的好奇心、特殊的好奇心、独立達成、挑戦、粘り強さ(持続性)、自己効力感)と成績を測定する3項目(言語理解・国語、数量理解・算数、運動・体育)について回答を得た。学ぶ意欲に関する6つの下位尺度は、今回独自に作成したので、統計的手法を用いて、下位尺度ごとに項目のまとまりの良さを確認した。その結果、「特殊的好奇心」は逆転項目の「あまり疑問を持たないで、情報をそのまま受け入れる。」という項目を削除した方がまとまりが良かったため、合計3項目で下位尺度を構成した。それ以外については、当初の構成のまま尺度として使用した。

### (1) 子どもの学ぶ意欲・成績における幼小差および男女差

まず下位尺度ごとに平均を算出した。平均は各下位尺度の得点を合計し項目数で割ったものであり、1～4までの値を取りうる。全体の記述統計量、幼小および男女を比較した記述統計量を表4-1、4-2、4-3にそれぞれ示す。

表4-1によると、すべての下位尺度は「どちらでもない」に相当する理論的な中央の値は2.5点となるが、すべての学ぶ意欲の下位尺度において、平均値は2.5点より高かった。特に「拡散的好奇心」および「独立達成」は3点を上回っており、いろいろなものに興味を示す傾向やできるだけ自分一人の力で成し遂げようとする傾向については、保育者・教師からより高く評価されていることが明らかとなった。一方、「挑戦」は得点が2.73と理論的に中央の値より高かったものの、学ぶ意欲全体の中では最も低い値であった。すなわち、難しいことに対しても挑戦する傾向については、その他の学ぶ意欲に比べて高く評価されておらず、子どもたちが今後伸ばす必要がある側面であるといえるかもしれない。

また、成績に関してみると、平均はすべての教科において3点を上回っていた。本研究

では幼児および小学校1～3年生を対象としたことを考えると、子どもたちが幼稚園や小学校で出会う問題はまだ難度があまり高くないため、成績も全体的に高く評価された可能性が挙げられる。教科を比較してみると、言語理解・国語、数量理解・算数、運動・体育と順に得点が低くなっていることがわかる。運動や体育は、幼児の頃から運動会などがあるため個人差が保育者や教師にとって見えやすい。そのために回答にばらつきが生まれ、平均が低くなったものと考えられる。一方、言語理解・国語は、日常生活の中で子どもと言葉によるコミュニケーションをとっているため、言語に問題を抱える子どもは極めて少ないと感じている保育者・教師が多いものと予想される。また国語では、答えが一つである数量理解・算数より出来不出来が捉えにくく、そのためにばらつきが生じにくくなり、得点が高かったものとも推察される。

幼稚園と小学校の差を比較したところ（表4-2）、「拡散的好奇心」「特殊的好奇心」および3科目の成績は、いずれも小学校より幼稚園の方が得点が高いという結果であった。2つの知的的好奇心において見られた差、特に拡散的好奇心において差が大きかったことは、幼児期の方が、様々なことに対して興味を持ち、行動する傾向が強いためであると解釈することが可能であるが、カリキュラムの性質上、小学校よりも幼稚園の方が、そのような行動が現れやすく、保育者の目に触れやすいため得点が高くなった可能性もある。3科目の成績の差については、小学校の方が試験等、客観的な評価基準が存在するために、評価が厳しくなったものと考えられる。一方で、「粘り強さ（持続性）」に関しては、幼稚園より小学校の方が得点が高かった。物事に粘り強く集中して取り組む能力は、幼児期から児童期にかけて発達し、それが行動として現れた結果であると考えられる。

次に、男子と女子の差を比較したところ（表4-3）、学ぶ意欲である「独立達成」「挑戦」「粘り強さ（持続性）」「自己効力感」という4つの側面と、成績である「言語理解・国語」「数量理解・算数」の2側面において、男子より女子の方が得点が高かった。今回の調査対象となった幼児期、児童期前半の子どもは一般に女子の方が男子よりも発達が早いことから、この差が現れたと考えられる。その一方で、「特殊的好奇心」に関しては、女子より男子の方が得点が高かった。一つのことを深く知ろうとする傾向は、男子の方が強いようである。特定のことに深い興味・関心を持ち追求することは男子のほうが得意なのかもしれない。

表4-1 学ぶ意欲および成績下位尺度の記述統計量（全体）

	人数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
学ぶ意欲					
拡散的好奇心	1392	1.00	4.00	3.01	0.63
特殊的好奇心	1392	1.00	4.00	2.86	0.62
独立達成	1393	1.00	4.00	3.00	0.62
挑戦	1393	1.00	4.00	2.73	0.66
粘り強さ(持続性)	1393	1.00	4.00	2.87	0.71
自己効力感	1392	1.00	4.00	2.97	0.61
成績					
言語理解・国語	1334	1.00	4.00	3.31	0.73
数量理解・算数	1334	1.00	4.00	3.25	0.73
運動・体育	1334	1.00	4.00	3.12	0.73

表 4-2 学ぶ意欲および成績下位尺度の記述統計量 (幼小)

	幼稚園			小学校			幼小差
	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差	
学ぶ意欲							
拡散的好奇心	700	3.10	0.66	692	2.92	0.57	幼>小
特殊的好奇心	700	2.90	0.65	692	2.82	0.58	幼>小
独立達成	700	3.00	0.67	693	3.00	0.58	
挑戦	700	2.75	0.72	693	2.72	0.60	
粘り強さ(持続性)	700	2.82	0.74	693	2.92	0.67	幼<小
自己効力感	700	3.00	0.66	692	2.95	0.55	
成績							
言語理解・国語	697	3.56	0.66	637	3.03	0.70	幼>小
数量理解・算数	697	3.41	0.74	637	3.09	0.69	幼>小
運動・体育	697	3.24	0.76	637	2.99	0.68	幼>小

表 4-3 学ぶ意欲および成績下位尺度の記述統計量 (男女)

	男子			女子			男女差
	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差	
学ぶ意欲							
拡散的好奇心	670	3.03	0.65	687	3.00	0.60	
特殊的好奇心	670	2.90	0.65	687	2.83	0.58	男>女
独立達成	671	2.91	0.65	687	3.09	0.59	男<女
挑戦	671	2.64	0.68	687	2.83	0.63	男<女
粘り強さ(持続性)	671	2.70	0.72	687	3.03	0.65	男<女
自己効力感	670	2.88	0.63	687	3.06	0.57	男<女
成績							
言語理解・国語	641	3.18	0.77	658	3.42	0.66	男<女
数量理解・算数	641	3.20	0.77	658	3.30	0.69	男<女
運動・体育	641	3.09	0.79	658	3.15	0.66	

## (2) 学ぶ意欲・成績得点における保育者・教師間の差

保育者・教師ごとに、子どもの学ぶ意欲・成績の各下位尺度得点の平均値を算出し、その平均値に差が存在するののかについて検討した。その結果、保育者・教師間で平均値に統計的に意味のある差のあることが示された。すなわち、評定した保育者・教師によって、平均値の高い場合と低い場合が存在するということである。これは、実際に学ぶ意欲・成績の高い子どもが偏って多く存在するクラスと低い子どもが偏って存在するクラスが調査協力園(校)に含まれていた可能性と、保育者・教師の中に、厳しめに評価する者と甘めに評価する者が存在していた可能性の2通りが推測される。後者の可能性である場合、全体における子どもの得点の高低を比較する際に、正しい比較をすることができない。したがって、これ以降の分析においては、保育者・教師による評定差を無くするため、標準化得点(子ども一人ひとりがクラス平均と比べて点数がどの程度高いのか低いのかを示す得点)を用いることにする。

### 3 子育てと子どもの学ぶ意欲・成績との関係編

#### (1) 母親の子育てが子どもの学ぶ意欲，成績に及ぼす影響

親の育児感情および養育行動，固定的な発達観（「能力」だけに限定），自尊感情が，子どもの学ぶ意欲および成績に影響を及ぼす過程について幼小別に検討した。その際，育児感情・固定的な発達観・自尊感情→養育行動→学ぶ意欲→成績というプロセスを仮定して（「目的」を参照），分析を行った。なお，保育者・教師の回答については前述の通り，標準化得点を使用した。その結果を図5-1と図5-2に示す。

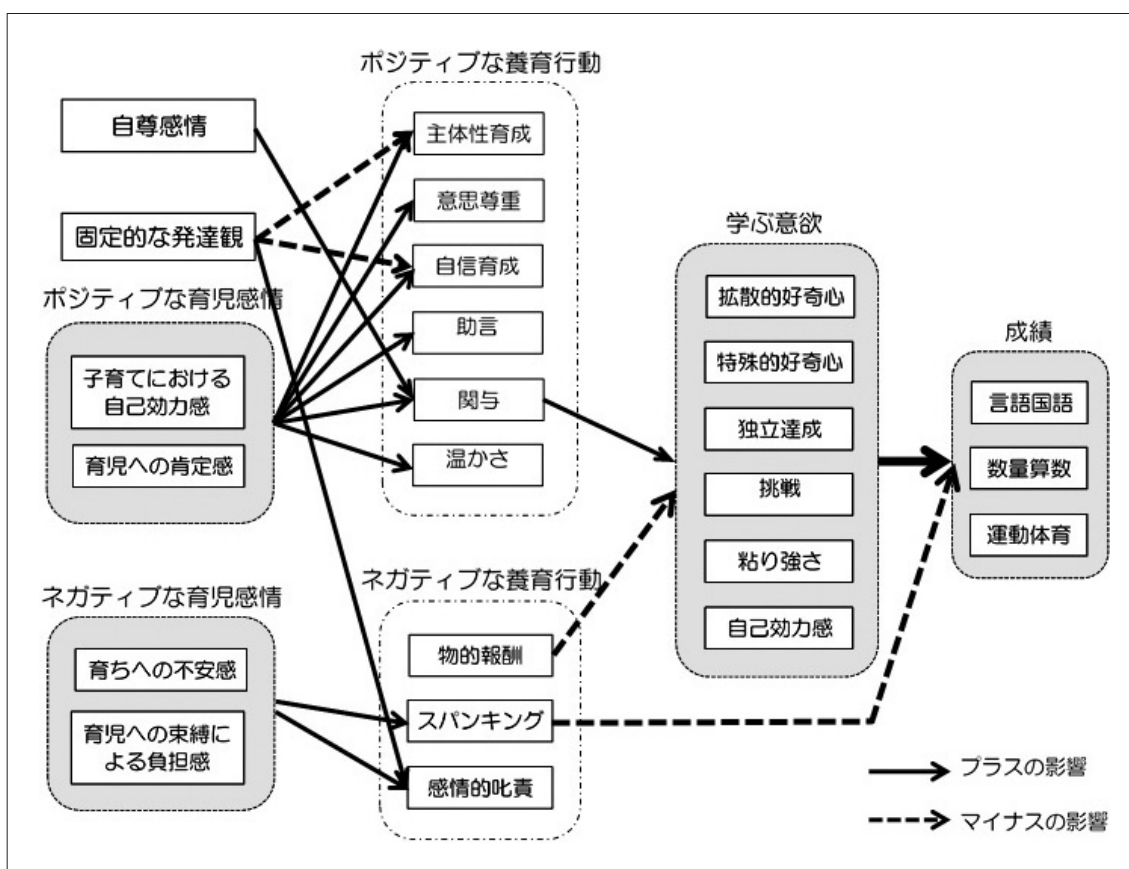


図5-1 母親の子育てが子どもの学ぶ意欲，成績に及ぼす影響（幼稚園）



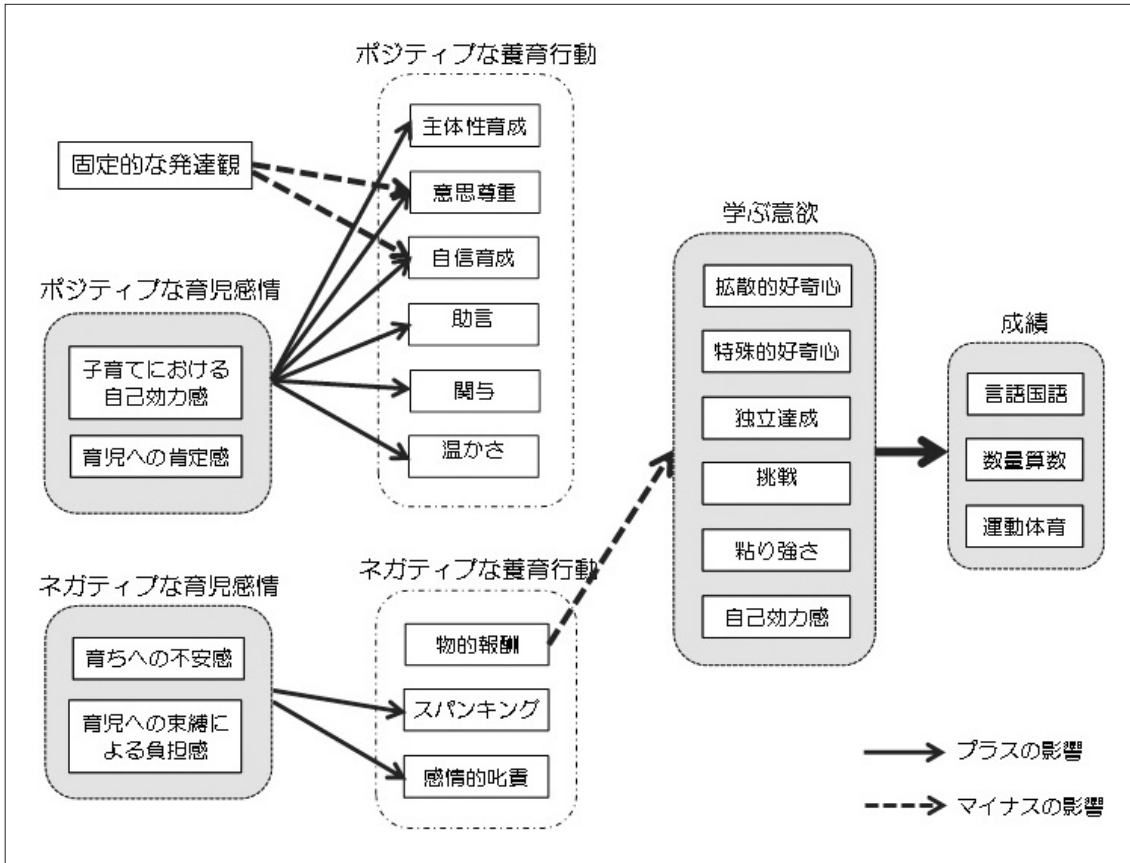


図 5 - 2 母親の子育てが子どもの学ぶ意欲，成績に及ぼす影響（小学校）

①感情や発達観から行動への影響

幼小どちらにおいてもポジティブな育児感情がポジティブな養育行動を高め、反対にネガティブな育児感情がネガティブな養育行動を高めることが示された。それぞれの感情がポジティブな養育行動とネガティブな養育行動を個別に高めるため、ポジティブな育児感情とネガティブな育児感情は異なる機能を持つことが明らかとなった。以上より、より良い養育行動をもたらすためには、ポジティブな育児感情を持てるよう支援するとともに、ネガティブな育児感情を持ちにくくするように支援することも重要であろう。

また幼児期において、母親の自尊感情の高さがポジティブな養育行動の中でも「関与」を促すことが明らかとなった。幼児期は児童期以降と比べ親の手がまだかかり、コミュニケーションも難しい時期であると考えられる。このような面で親がストレスを抱えやすい幼児期には、まずは母親自身が自分を大切に思うことが重要であり、この心の余裕が、子どもと上手に関わりコミュニケーションをとろうとする「関与」へとつながるものと考えられる。

固定的な発達観からは、幼小ともにポジティブな養育行動に対する否定的な影響がみられた。幼小共通して「自信育成」を低めてしまうだけでなく、幼稚園児では「主体性育成」、小学生では「意思尊重」をも低めるという結果となった。また、幼稚園児ではさらにネガティブな養育行動の中の「感情的叱責」を高めてしまうことも明らかとなった。すなわち、

子どもの発達に関する考え方として、「子どもの能力は固定的で変わらないものだ」と考えていると、子どもの自信を育てたり、子どもの主体性を伸ばしたり、子どもの意思を尊重したりする望ましい行動を行わなくなってしまう、幼稚園児をもつ母親ではさらに感情的に叱りがちになってしまうようである。母親が「能力が変動的である」と考えていれば、子どもの能力をさらに伸ばすように、自信がつくよう応援したり、主体性を発揮できるように支援したりする行動に繋がるが、「能力が固定的である」と考えてしまうと、子どもにこのような支援を行っても効果が見込めないため、行動が少なくなるものと考えられる。また「能力が固定的である」と考えている場合には、子どもが何か失敗すると、それは発達の過程ではなく、本人の生まれ持った能力の低さが露呈したものと捉えるため、つい感情的に怒ってしまうことが増えるのではないかと推察される。

## ②養育行動から学ぶ意欲および成績への影響

幼稚園児では、ポジティブな養育行動の中でも「関与」が学ぶ意欲を高め、その結果成績の高さへとつながることが明らかとなった。また、ネガティブな養育行動の中でも「物的報酬」が学ぶ意欲を低めること、「スパンキング」が直接成績を低めることが明らかとなった。小学生では「物的報酬」が学ぶ意欲を低めることが明らかとなった。

まず幼小に共通した結果として、ネガティブな養育行動の中でもご褒美を与えることで子どもをコントロールしようとするといった「物的報酬」に頼ることが、好奇心を持ったたり、何かに挑戦したり、粘り強く取り組んだりするなどの子どもの意欲を低めてしまうことが明らかとなった。「楽しい」とか「面白い」と思って子どもが自ら行動している時に物的な報酬を与えると、子どものもつそうした感情を低減させてしまい、報酬が与えられない時には行動しなくなってしまうという「アンダーマイニング現象」が生起するとされるが、本調査の結果もこれを裏付けるものと考えられる。物的報酬に頼ると、短期的には子どもを大人が思う通りの行動に導くことはできるかもしれないが、長期的にみると物的報酬の使用は子どもの発達に重要な「自ら」学ぶ意欲を妨げてしまう危険性があるものと考えられる。

さらに幼児期においては、子どもの学ぶ意欲を育てるためには、子どもと関わる時間をとるという母親の「関与」が重要であることが明らかとなった。母親が子どもとコミュニケーションを取れば、コミュニケーションの中で子どもの好奇心の芽生えを察知する機会を得ることができると考えられる。さらに、その芽生えた好奇心を伸長させるやり取りを続けることができた場合には、学ぶ意欲を高めることにつながると予想される。また、コミュニケーションを取る中で子どもは母親に温かく受容される機会を得るため、そこで安心感を得て、自分はやればできるという自己効力感を高めたり、粘り強く頑張ってみようという頑張る力を強めたりすることができるようになるものと考えられる。したがって、母親が子どもとコミュニケーションを取ることは、子どもにとっては以上のような学ぶ意欲を育む機会を与えることに繋がると考えられる。

また、幼児期においてはネガティブな養育行動の中でも子どもの手足やおしりをたたく

などの「スパンキング」が、成績を直接低めてしまうことが明らかとなった。これは継続的なスパンキングをすることで子ども自身が萎縮してしまうことが原因の一つとして考えられる。実際に、Tomoda, Suzuki, Rabi, Sheu, & Teicher (2009) の研究によると、ほおへの平手打ちや物を使って尻をたたくなどの体罰を継続して受けた子どもは、体罰を受けずに育った子どもよりも脳の成長が妨げられてしまうということが明らかにされている。今回の研究で回答されたスパンキングはTomoda et al. (2009) の研究ほどではないにせよ、体罰に値する行為には脳を委縮させたり、その結果成績を下げたりする効果があると考えられるため、注意が必要である。

以上のとおり、幼児期においては「関与」および「スパンキング」から学ぶ意欲および成績への影響がみられたが、児童期前期では影響があまりみられなかった。これについては、保護者が回答する際に現在だけでなくこれまで行ってきた養育行動全体を思い出して回答したために、幼児期にしてあげた行動なども回答に混ざってしまい、結果的に保護者回答で思い浮かべられた期間は幅が広いが、保育者・教師から回答が得られた今現在についての学ぶ意欲や成績は幅が狭かったため、関連が見出しにくくなったという可能性が挙げられる。他にも、1学期終了後と比較的早い段階で先生方に受け持ちの児童について評定していただいたため、幼稚園より1クラスあたりの人数が多く担任の先生も1名である小学校では、子どもの状態を幼稚園ほど数値に反映させることが難しかったという調査上の問題点による可能性が挙げられる。

## (2) 子どもの学ぶ意欲が成績に及ぼす影響

子どもの学ぶ意欲から成績に至る過程についてさらに詳しく検討した。幼小別に得られた結果を図5-3と5-4に示す。

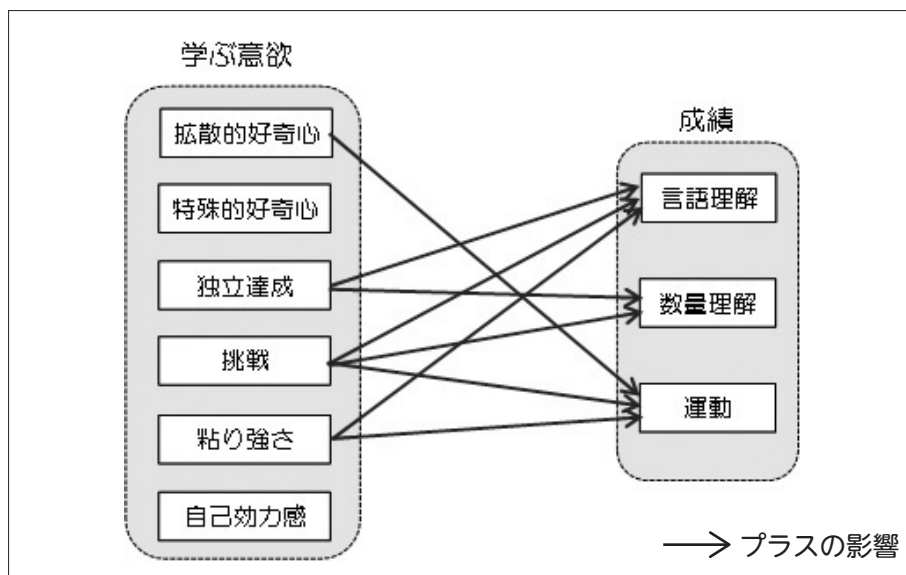


図5-3 子どもの学ぶ意欲が成績に及ぼす影響（幼稚園）

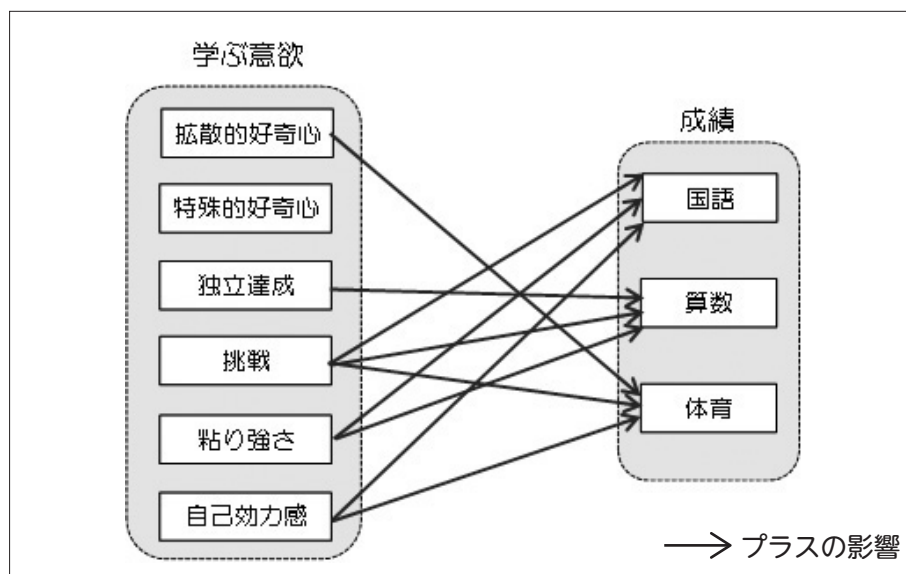


図 5 - 4 子どもの学ぶ意欲が成績に及ぼす影響（小学校）

まず「挑戦」は幼小どちらにおいてもすべての成績を高めることが示された。難しいことに対しても挑戦する傾向のある子どもは、新しい問題や遊び、学びに対しても積極的に取り組むことができると考えられるため、成績全般を高めたのではないかと考えられる。

「粘り強さ」は幼児の「言語理解」と「運動」を、小学生の「国語」と「算数」の成績を高めることが明らかとなった。幼児期において数量に関する課題は多くの場面で登場するわけではないが、言語や運動に関しては、日常的に生じる課題であると考えられる。そのため、粘り強く諦めない傾向を持っている子どもほど、わからない言葉やできない運動に出会ってもその場で諦めずに取り組むため、評価が高くなったものと推察される。一方、小学校1～3年生においては国語と算数の授業が多く行われており、なかには難しい問題も登場すると考えられるため、この粘り強く取り組み諦めない力が必要とされ、成績に影響したものと考えられる。

「独立達成」は幼稚園児の「言語理解」と「数量理解」を、小学生の「算数」を高めることが示された。幼児期に自分でできることは一人でやろうとする傾向のある子どもは、就学後の国語や算数の力へとつながる言語理解や数量理解が高いことが明らかとなった。これは、成長の早さによるものとも捉えることができるが、自ら考え行動する力、すなわち自ら学ぶ力が備わっているため他の子どもより早く言語や数量に対する理解ができるようになったとも考えられる。また、小学校にあがった後もこの一人でやろうとする力は、問題を解くという課題が与えられ一人で考える時間が多いと予想される算数において、特に発揮されたものと考えられる。

さらに「自己効力感」は小学生の「国語」と「体育」の成績を高めることが示された。自分はやればできると子ども自身が考え自信を持つことが、小学生の国語と体育には重要であることが明らかとなった。これは、自信があるため日常において積極的に新しい本を読んだり、新しい運動に取り組んだりすることができるため、成績が高くなったものと考

えられる。

最後に、「拡散的好奇心」は幼小どちらにおいても「運動」や「体育」における評価を高めることが示された。様々なものに興味を示すという拡散的好奇心の高い子どもは、少し見方を変えると元気で時には落ち着きのない子と捉えられるかもしれない。そのような傾向をもつ子どもはその積極性で元気に遊び回るため、運動能力が高くなった、または高いと評価されたものと考えられることができるであろう。

以上の通り、拡散的好奇心から成績への影響も一部みられたが、今回の研究の結果では子どもの成績の高さと特に関連したのは、挑戦や粘り強さ、独立達成という子どもが自分で行動し難しいことにも諦めずに取り組む力であった。好奇心の育成も重要であると考えられるが、子どもたちが自ら行動し粘り強く挑戦するよう大人が支援していくことの重要性も明らかとなったと考えられよう。

(大内晶子・倉住友恵)

## 4章 まとめと提言

本調査では、東京都内の私立・公立の幼稚園6園に通う年中児と年長児、ならびにその近隣の公立小学校4校に通う1～3年生の計2097名を調査対象児とし、彼らの学ぶ意欲と成績に及ぼす保護者（おもに母親）の子育て関連要因の影響を検討した。

調査協力者は、子どもの保護者と保育者（幼稚園教員）・教師（小学校教員）であった。保護者には、子育て関連要因として①自尊感情、②固定的な発達観、③ポジティブな育児感情、④ネガティブな育児感情、⑤ポジティブな養育行動、⑥ネガティブな養育行動、などを尋ねる調査に協力してもらった。一方、保育者・教師には、子どもの①学ぶ意欲、②成績、などを尋ねる調査に協力してもらった。調査の詳しい内容については「2章 調査の方法」を参照していただきたい。

なお、分析に用いたデータは、①保護者からの回答と保育者・教師からの回答を照らし合わせることができ、②子どもの生まれ年に関する保護者の回答が正しく、③保護者として母親が回答した、データに絞った。その結果、最終的な分析に用いたデータは1366名分となった。

以下では、おもな調査結果（詳しい調査結果は「3章 調査の結果と考察」を参照）とそれらに基づく提言をまとめる。

## （1）子育てについて

幼稚園児の母親と小学生の母親の子育て関連要因について比較した結果（表3-3 p.25参照）、ネガティブな育児感情のひとつである「育ちへの不安感」は、幼稚園児の母親よりも小学生の母親のほうが高得点であった。一方で、ネガティブな養育行動のひとつである「物的報酬」およびポジティブな養育行動である「関与」と「温かさ」では、小学生の母親よりも幼稚園児の母親のほうが高得点であった。

つぎに、子育て関連要因について男児と女児の差を比較したところ（表3-4 p.25）、ネガティブな育児感情のひとつである「育ちへの不安感」とネガティブな養育行動のひとつである「スパンキング」において、女児の母親よりも男児の母親の方が高得点であった。

こうした結果より、小学生の男児の母親の場合に、子育てへの不安が高いといえる。小学校低学年の時期には何かと問題が生じるようだが、母親が「大丈夫、何とか対処できる」と思えるには、子育てで困ったときに同じクラスの保護者や先輩（祖母や専門家など）に相談できる体制や雰囲気づくりが必要であろう。また、幼児期には物的報酬を与えて幼児の気持ちや行動をコントロールしようとすることは禁物である。学ぶことをはじめとして幼児の大事な“自発性”が失われる危険性があるからだ。この点についてはさらに後述したいと思う。むしろ幼児期には、子どもと話したり遊んだりすること、子どもの気持ちを理解しそれに温かく対応することなどを通して、親子の関係性を深めることが大事である。

子育て関連要因とその他の変数との関係では、3点、特筆すべき結果がある。ひとつは、父親が子育てによく関わっていることが母親の子育て（育児感情でも養育行動でもほぼ同様）により影響を与えること、そして、つぎにより影響を与えるのが母方の祖母である点

だ。二つ目は、父親が同居しているにもかかわらず子育てに関わらない家庭の方が、もともと父親が不在の家庭よりも、母親の「育児への束縛による負担感」が高く、子どもへの「感情的叱責」も多いという点である。三つ目は、母親の職業が常勤職よりも専業主婦のほうが、「育児への束縛による負担感」が高いという点である。

これらの結果から、母親の育児感情や養育行動には、父親ならびに母方の祖母の関わりが大きな影響を与えること、さらにいえば、父親が同居している場合には子育てに積極的に関わり、母方の祖母も母親のよきアドバイザーになること、が母親の子育てによい影響を与えるものと考えられる。また、母親が専業主婦の場合には育児負担を強く感じるため、子育てから自由になれる時間を作るなど、生活に“ゆとり”が持てる配慮が必要不可欠である。

## (2) 子どもの学ぶ意欲と成績について

幼稚園児と小学生の学ぶ意欲と成績について比較したところ(表4-3 p.32)、「拡散的好奇心」「特殊的好奇心」および3科目の成績は、いずれも小学生よりも幼稚園児の方が高得点であった。つぎに、男児と女児の差を比較したところ(表4-4 p.32)、学ぶ意欲の「独立達成」「挑戦」「粘り強さ(持続性)」「自己効力感」という4つの側面と、成績の「言語理解・国語」と「数量理解・算数」の2側面において、男児より女児の方が高得点であった。その一方で、「特殊的好奇心」に関しては、女児より男児の方が高得点であった。

幼児が好奇心旺盛である点が確認されたといえる。こうした好奇心をしほませないように興味・関心のある刺激を与えることが大事であろう。学ぶ意欲も成績も女児が男児よりも高い傾向にあるが、小学校低学年は発達的に見れば男児より女児が優位にあり、その影響のひとつかもしれない。ただ、男児の学ぶ意欲がしほまないように勇気づける必要はあるように思う。なお、小学生では、遅生まれ(おもに4~6月生まれ)の子どものほうが早生まれ(1~3月生まれ)の子どもよりも、身体面でも学業面でも優位な傾向がつづく。この点についても一定の配慮が必要であろう。

## (3) 子育てと子どもの学ぶ意欲・成績との関係について

「1章 調査の目的」に示された仮説に基づき、「自尊感情、固定的な発達観(能力に関してのみ)、育児感情」→「養育行動」→「学ぶ意欲」→「成績」という関係のモデルを検討した(図5-1, 図5-2参照)。以下では、①固定的な発達観と育児感情から養育行動への影響について、と②養育行動から学ぶ意欲および成績への影響について、に分けてまとめる。

### ①固定的な発達観と育児感情から養育行動への影響について

とくに大事なのは、幼稚園児と小学生のどちらの場合においても「固定的な発達観」か



ら「ポジティブな養育行動」に対する否定的な影響がみられたことであり、具体的に言えば、幼小共通して「自信育成」を低めてしまうだけでなく、幼稚園児の母親の場合には「主体性育成」、小学生の母親の場合には「意思尊重」をも低めてしまうことである。さらに、幼稚園児の母親ではネガティブな養育行動のなかの「感情的叱責」を高めてしまうことも明らかとなった。

ここでいう固定的な発達観とは、子どもの能力は固定的であり、本人や周囲の者の努力によっても変わらないという考え方である。このような考え方が母親に生じてしまうと、子どもの成長・発達を促そうという気持ちが減じられるため、ポジティブな養育行動が減少し、ネガティブな養育行動を増加させてしまう可能性が高い。こうした点でこの発達観を強くもたないように配慮することが必要である。ただ、つぎの②の結果を見ると、「固定的な発達観」が育児感情、養育行動を通して「学ぶ意欲」に与える影響はそれほど大きくないようである。学ぶ意欲の測定は教師評定に基づいているため、子ども本来の学ぶ意欲を正確に測定できていない可能性を考慮すると、固定的な発達観の影響は少なくない可能性もある。注意することに越したことはないであろう。

#### ②養育行動から学ぶ意欲および成績への影響について

とくに大事なものは、幼稚園児の母親ではポジティブな養育行動のなかでも「関与」が子どもの「学ぶ意欲」を高め、その学ぶ意欲が「成績」を高めるという流れがあること、幼小に共通してネガティブな養育行動のなかでも「物的報酬」が「学ぶ意欲」を低めること、幼稚園児の母親の場合には「スパンキング」が子どもの「成績」を直接低めること、である。

これらの結果ならびに①の結果等から、幼稚園児の場合には、「自尊感情、固定的な発達観、育児感情」→「養育行動」→「学ぶ意欲」→「成績」という流れが確認され、仮説モデルは実証されたといえよう。一方、小学生の場合には、「育児感情(ネガティブのみ)」→「養育行動(ネガティブのみ)」→「学ぶ意欲」→「成績」という流れが確認され、仮説モデルの一部が実証されたといえよう。いずれの場合にも、ネガティブな育児感情が養育行動、学ぶ意欲、そして成績へと影響する過程は見いだされており、ネガティブな育児感情をできるだけ低減させるような対応をすることが重要であるといえる。それには、前述の通り、父親や母方の祖母をはじめとする子育て関係者の関わりが必要であることは間違いない。

つぎに、「物的報酬」の「学ぶ意欲」に与えるマイナスの影響が幼小のいずれでも見出されており、これはとても刺激的な発見であるといえる。心理学の実験的な研究では、物的報酬が内発的な学習意欲を低下させること(櫻井, 2009)はよく知られているが、このような調査で同様の結果が見出されたのは稀有ではないだろうか。幼稚園児や小学生をお持ちの母親には肝に銘じていただきたいと思う。物的報酬によって、子どもにより大きな学ぶ意欲を持たせようとしてはいけないのである。物的報酬ほしさに学びが起これると、物的報酬がなくなると学びは成立しなくなるのである。学習放棄である。

幼稚園児に対するスパンキング(おもに平手でたたくこと)は成績に直接マイナスの影響

響をもたらした。すなわち、たたかれると成績が悪くなるのである。幼児期は脳がまだ発達途上にあり、たたかれることによって脳が委縮する可能性があるという。注意が必要である。

(櫻井茂男)

## 引用・参考文献

- 荒牧美佐子・無藤 隆 (2008). 育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い—未就学児を持つ母親を対象に— 発達心理学研究, **19**, 87-97.
- Dweck, C. S. (1999). *Self-theories: Their role in motivation, personality, and development*. Philadelphia: Taylor & Francis.
- 厚生労働省 (2014). 平成26年 グラフで見る世帯の状況—国民生活基礎調査 (平成25年) の結果から— 厚生労働省大臣官房統計情報部.
- 国立教育政策研究所ホームページ (2015). 平成27年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料【全国版/小学校】  
(<https://www.nier.go.jp/15chousakekkahoukoku/factsheet/primary/>)
- 松岡弥玲・岡田 涼・谷 伊織・大西将史・中島俊思・辻井正次 (2011). 養育スタイル尺度の作成—発達的变化とADHD傾向との関連から— 発達心理学研究, **22**, 179-188.
- 溝川藍 (2014). 子どもの能力・個性の発達に関する母親のマインドセット—ほめる・叱るに関する信念と情動表出スタイルとの関連— 日本心理学会第78回大会論文集, 996.
- 中台佐喜子・金山元春・前田健一 (2004). 母親の養育態度が幼児の問題行動に及ぼす影響—養育態度→家庭における問題行動→園における問題行動というプロセスの検討— 広島大学心理学研究, **4**, 151-157.
- 西村多久磨・河村茂雄・櫻井茂男 (2011). 自律的な学習動機づけとメタ認知的方略が学業成績を予測するプロセス—内発的な学習動機づけは学業成績を予測することができるのか?— 教育心理学研究, **59**, 77-87.
- 西村多久磨・櫻井茂男 (2013). 中学生における自律的な学習動機づけと学業適応との関連 心理学研究, **84**, 365-375.
- 齋藤 有・内田伸子 (2013). 幼児期の絵本の読み聞かせに母親の養育態度が与える影響—「共有型」と「強制型」の横断的比較— 発達心理学研究, **24**, 150-159.
- 桜井茂男 (2000). ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討 筑波大学発達臨床心理学研究, **12**, 65-71.
- 桜井茂男 (2009). 自ら学ぶ意欲の心理学—キャリア発達の視点を加えて— 有斐閣
- 三鈷泰代 (2008). 幼児期の子どもをもつ親の養育スキルに関する研究—親の養育スキルと子どもの行動傾向との関連 (中間報告) — 発達研究, **22**, 181-190.
- Tomoda, A., Suzuki, H., Rabi, K., Sheu, Y. S., & Teicher, M. H. (2009). Reduced prefrontal cortical gray matter volume in young adults exposed to harsh corporal punishment. *Neuroimage*, **47**, 66-71.
- 内田伸子 (2012). 日本の子育ての格差—学力基盤力の経済的格差は幼児期から始まっているか— 内田伸子・浜野 隆 (編) お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム格差センシティブな人間発達科学の創成 第2巻 世界の子育て格差—子どもの貧困は超えられるか— 金子書房 pp.1-18.

## 資料編

- ① 保護者用調査票/保護者調査結果表
- ② 保育者・教師調査票/保育者・教師調査結果表

# 子育てについての意識調査

## －保護者用調査票－

このたび、(公財)日本教材文化研究財団からの委託を受け、子育てについての意識調査を実施することになりました。この調査は、最近の子育ての実態を明らかにし、どのような子育てが子どもの成長にプラスあるいはマイナスの働きをするのかを分析し、今後の子育てのあり方を検討するために行うものです。

ご回答いただきました結果はすべて統計的に処理します。お名前等のご記入は必要ありません。また、回答者ならびに関係する学校等にご迷惑をおかけすることは決してありませんので、安心してご回答ください。

この調査票は、回答が終わりましたら、無記名のまま封筒に入れ厳封し、お子様を通して担任の先生にご提出ください。

調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力いただけますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

平成27年6月

学ぶ意欲研究会 代表 筑波大学教授 櫻井茂男  
お問い合わせ先 公益財団法人 日本教材文化研究財団  
住所 東京都新宿区払方町14-1  
電話 (03)5225-0255

◆はじめに、以下にご記入をお願いします。

お子さんの性別 ( 男 ・ 女 )

お子さんの生年月日 ( 平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日 )

お子さんには兄弟・姉妹が何人いますか？ ( 兄\_\_人 / 弟\_\_人 / 姉\_\_人 / 妹\_\_人 )

回答して下さる方とお子さんの関係 ( 母親 ・ 父親 ・ その他【       】 )

回答して下さる方の年齢 ( \_\_\_\_\_ 歳 )

1 子ども一般の「能力」と「個性」の発達について、あなたの考えをお聞かせください。

下線部分に注目して、もっともよく当てはまる数字を○で囲んでください。

		まったく 思わない	そう 思わない	どちら でもない	そう 思う	強く 思う	
能力	1-1	子どもの持つ能力は、それぞれ一定であり、 <u>子ども自身の努力によっては、</u> 変わらないものであると思う。					1 — 2 — 3 — 4 — 5
	1-2	子どもの持つ能力は、 <u>親の働きかけによって、</u> 大きく変化すると思う。					1 — 2 — 3 — 4 — 5
	1-3	子どもの能力は、 <u>子どもが自分で変えていくことのできるもの</u> だと思う。					1 — 2 — 3 — 4 — 5
	1-4	子どもは、新しいことを学ぶことはできるが、 <u>子育てを通じて基本的な能力を変えることはできない</u> と思う。					1 — 2 — 3 — 4 — 5
個性	1-5	子どもの持つ個性は、 <u>子ども自身が努力しても、</u> 本当の意味では変えることができないと思う。					1 — 2 — 3 — 4 — 5
	1-6	子どもの個性は、 <u>子どもが自分で変えていくことのできるもの</u> だと思う。					1 — 2 — 3 — 4 — 5
	1-7	子どもの個性は、その子の一部であって、 <u>親の働きかけによっても大きく変えることができない</u> と思う。					1 — 2 — 3 — 4 — 5
	1-8	子どもの個性は、 <u>子育てを通じていつでも変えることができる</u> と思う。					1 — 2 — 3 — 4 — 5

2 子育てをしているとき、次のようなことを感じることはありませんか。もっともよく当てはまる数字を○で囲んでください。

		まったく ない	あまり ない	ときどき ある	よくある
2-1	他の子どもと比べて、自分の子どもの発達が遅れているのではないかと思う。	1 — 2 — 3 — 4			
2-2	子どもとうまくかかわれていると感じる。	1 — 2 — 3 — 4			
2-3	子どもを育てることは苦手だと感じる。	1 — 2 — 3 — 4			
2-4	子どもを育てることは、有意義ですばらしいことだと思う。	1 — 2 — 3 — 4			
2-5	子どもを育てるために我慢ばかりしている。	1 — 2 — 3 — 4			
2-6	子育てで、困ったことがあっても何とかなると思う。	1 — 2 — 3 — 4			
2-7	他の子どもにはできて、自分の子どもにはできないことが多いと感じる。	1 — 2 — 3 — 4			
2-8	子どもを育てるのは楽しいと思う。	1 — 2 — 3 — 4			
2-9	子どもを育てることによって、自分も成長しているのだと感じる。	1 — 2 — 3 — 4			
2-10	自分ひとりだけで子育てしているような気がする。	1 — 2 — 3 — 4			
2-11	子どもに時間を取られて、自分のやりたいことができず、イライラする。	1 — 2 — 3 — 4			
2-12	園や学校で、自分の子どもが他の子どもに遅れないでついていけるか不安になる。	1 — 2 — 3 — 4			
2-13	子どもの成長が楽しみだと感じる。	1 — 2 — 3 — 4			
2-14	毎日子育ての繰り返しばかりで、社会との絆が切れてしまうように感じる。	1 — 2 — 3 — 4			
2-15	子育てで私でなければできないことがあると思う。	1 — 2 — 3 — 4			
2-16	同年齢の子どもと比べて、自分の子どもは幼いと感じる。	1 — 2 — 3 — 4			

3 普段、お子さんに対して次のような行動をすることがどのくらいありますか。

もっともよく当てはまる数字を○で囲んでください。

	まったく ない	あまり ない	ときどき ある	よくある
3-1 子どもが自分から進んで物事に取り組めるように見守る。	1	2	3	4
3-2 子どもに好きだという気持ちを伝える。	1	2	3	4
3-3 子どもの得意なことを伸ばせるように働きかける。	1	2	3	4
3-4 子どもが自分で決めたことは尊重する。	1	2	3	4
3-5 子どもが嫌いなことでもがんばっていたら、ごほうびとして何かを与える。	1	2	3	4
-----				
3-6 子どもが悪いことをすると、子どもの体をびしゃりとたたく。	1	2	3	4
3-7 子どもが悲しんでいるときには、そばにいてあげる。	1	2	3	4
3-8 子どもが悪いことをすると、感情的にしかる。	1	2	3	4
3-9 子どもと話したり遊んだりする。	1	2	3	4
3-10 子どもが言うことをきかないと、子どもの手や足をびしゃりとたたく。	1	2	3	4
-----				
3-11 子どもが自分で考えて行動できるように助言する。	1	2	3	4
3-12 子どもが失敗したときは、次にうまくいくようにアドバイスをする。	1	2	3	4
3-13 子どもがうまくできないときにはヒントを与える。	1	2	3	4
3-14 子どもが良いことをしたら、ごほうびに何かをあげる。	1	2	3	4
3-15 子どもが自分で決めたことは、最後まで取り組めるように支援する。	1	2	3	4
-----				
3-16 子どもが言うことをきかないと、大声でどなる。	1	2	3	4
3-17 子どものことを決めるときは、どれがよいのか子どもの意見を聞く。	1	2	3	4
3-18 子どもに元気がないときは、子どもの気持ちが和らぐように接する。	1	2	3	4
3-19 自分のきげんが悪いと、普段よりきつくしかる。	1	2	3	4
3-20 子どもが何かを選んだり決めたりするとき、できるだけ子どもに任せる。	1	2	3	4
-----				
3-21 忙しくても、園・学校であった話を聞く時間をとる。	1	2	3	4
3-22 子どもの能力が伸びるように応援する。	1	2	3	4
3-23 子どもに自信がなさそうなときは、あなたならできると励ます。	1	2	3	4
3-24 子どもが悪いことをしたとき、自分の気分によってしかる程度が変わる。	1	2	3	4
3-25 子どもが、「自分是可以する」という自信をもてるように、手助けする。	1	2	3	4

(次ページへ続きます。)

3 の続きです。引き続き、もっともよく当てはまる数字を○で囲んでください。

- |   | まったく<br>ない | あまり<br>ない | ときどき<br>ある | よくある |
|---|------------|-----------|------------|------|
| 3-26 子どもが話し始めたら、まずは最後まで聞いてあげる。            | 1          | 2         | 3          | 4    |
| 3-27 子どもが自分ひとりで決められないようなことには、選択肢を与える。     | 1          | 2         | 3          | 4    |
| 3-28 子ども自身のことは子どもが自分で決めるように励ます。           | 1          | 2         | 3          | 4    |
| 3-29 子どもがしていることに興味を持って言葉をかける。             | 1          | 2         | 3          | 4    |
| 3-30 子どもが難しいことに挑戦するときは、できそうなところからやるように促す。 | 1          | 2         | 3          | 4    |

4 あなたの気持ちにもっともよく当てはまる数字を○で囲んでください。

- |                                      | いいえ | どちらかといえば<br>いいえ | どちらかといえば<br>はい | はい |
|--------------------------------------|-----|-----------------|----------------|----|
| 4-1 私は自分に満足している。                     | 1   | 2               | 3              | 4  |
| 4-2 私は自分がだめな人間だと思う。                  | 1   | 2               | 3              | 4  |
| 4-3 私は自分には見どころがあると思う。                | 1   | 2               | 3              | 4  |
| 4-4 私は、たいいていの人がやれる程度には物事ができる。        | 1   | 2               | 3              | 4  |
| 4-5 私には得意に思うことがない。                   | 1   | 2               | 3              | 4  |
| -----                                |     |                 |                |    |
| 4-6 私は自分が役立たずだと感じる。                  | 1   | 2               | 3              | 4  |
| 4-7 私は自分が、少なくとも他人と同じくらいの価値のある人間だと思う。 | 1   | 2               | 3              | 4  |
| 4-8 もう少し自分を尊敬できたらと思う。                | 1   | 2               | 3              | 4  |
| 4-9 自分を失敗者だと思いがちである。                 | 1   | 2               | 3              | 4  |
| 4-10 私は自分に対して、前向きな態度をとっている。          | 1   | 2               | 3              | 4  |

◆最後に以下の項目にお答えください。

① 以下の中で、お子さんと同居している方に○をしてください。(複数回答可)

父 母 父方の祖父 父方の祖母 母方の祖父 母方の祖母 その他 ( )

② 普段家庭で子育てによく関わっている人に○をしてください。(複数回答可)

父 母 父方の祖父 父方の祖母 母方の祖父 母方の祖母 その他 ( )

③ あなたの職業等について当てはまる数字を1つだけ○で囲んでください。

1：常勤 2：パート・アルバイト 3：専業主婦(夫) 4：自営業・自由業 5：その他 ( )

ご協力いただき、誠にありがとうございました。  
この調査票は封筒に入れて厳封し、お子さんを通じて担任の先生にお渡し下さい。



## 保護者 調査結果集計表

1-1.子どもの持つ能力は、それぞれ一定であり、子ども自身の努力によっては、変わらないものであると思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
強くそう思う	146	43.5	158	43.4	100	38.6	96	41.2	87	38.7	587	41.4
そう思う	160	47.6	174	47.8	135	52.1	115	49.4	113	50.2	697	49.1
どちらでもない	19	5.7	19	5.2	17	6.6	15	6.4	16	7.1	86	6.1
そう思わない	9	2.7	12	3.3	5	1.9	7	3.0	9	4.0	42	3.0
まったくそう思わない	2	0.6	1	0.3	2	0.8	0	0.0	0	0.0	5	0.4
合計	336	100.0	364	100	259	100.0	233	100.0	225	100.0	1417	100.0

1-2.子どもの持つ能力は、親の働きかけによって、大きく変化すると思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
強くそう思う	1	0.3	0	0.0	3	1.1	2	0.8	2	0.9	8	0.6
そう思う	13	3.9	12	3.3	9	3.4	7	3.0	6	2.7	47	3.3
どちらでもない	23	6.9	32	8.8	21	8.0	18	7.7	17	7.6	111	7.8
そう思わない	210	62.7	239	65.5	161	61.7	160	68.1	158	70.2	928	65.3
まったくそう思わない	88	26.2	82	22.4	67	25.7	48	20.4	42	18.7	327	23.0
合計	335	100.0	365	100.0	261	100.0	235	100.0	225	100.0	1421	100.0

1-3.子どもの能力は、子どもが自分で変えていくことのできるものだと思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
強くそう思う	6	1.8	4	1.1	3	1.1	1	0.4	4	1.8	18	1.3
そう思う	21	6.3	20	5.5	16	6.1	11	4.7	9	4.0	77	5.4
どちらでもない	42	12.5	55	15.1	32	12.3	38	16.2	24	10.7	191	13.4
そう思わない	212	63.1	222	60.8	156	59.8	129	54.9	144	64.0	863	60.7
まったくそう思わない	55	16.4	64	17.5	54	20.7	56	23.8	44	19.6	273	19.2
合計	336	100.0	365	100.0	261	100.0	235	100.0	225	100.0	1422	100.0

1-4.子どもは、新しいことを学ぶことはできるが、子育てを通じて基本的な能力を変えることはできないと思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
強くそう思う	59	17.6	65	17.8	51	19.6	41	17.5	27	12.0	243	17.1
そう思う	208	61.9	234	64.3	154	59.2	148	63.0	157	69.8	901	63.5
どちらでもない	45	13.4	52	14.3	45	17.3	37	15.7	37	16.4	216	15.2
そう思わない	22	6.5	12	3.3	7	2.7	9	3.8	4	1.8	54	3.8
まったくそう思わない	2	0.6	1	0.3	3	1.2	0	0.0	0	0.0	6	0.4
合計	336	100.0	364	100.0	260	100.0	235	100.0	225	100.0	1420	100.0

1-5.子どもの持つ個性は、子ども自身が努力しても、本当の意味では変えることができないと思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
強くそう思う	43	12.8	42	11.5	27	10.3	36	15.3	28	12.5	176	12.4
そう思う	135	40.2	152	41.8	128	49.0	109	46.4	108	48.2	632	44.5
どちらでもない	78	23.2	95	26.1	59	22.6	42	17.9	46	20.5	320	22.5
そう思わない	76	22.6	73	20.1	43	16.5	46	19.6	39	17.4	277	19.5
まったくそう思わない	4	1.2	2	0.5	4	1.5	2	0.8	3	1.4	15	1.1
合計	336	100.0	364	100.0	261	100.0	235	100.0	224	100.0	1420	100.0

1-6.子どもの個性は、子どもが自分で変えていくことのできるものだと思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
強くそう思う	4	1.2	3	0.8	3	1.1	1	0.4	1	0.4	12	0.8
そう思う	65	19.3	47	12.9	30	11.5	26	11.1	25	11.2	193	13.6
どちらでもない	87	25.9	98	26.9	61	23.4	56	23.9	50	22.3	352	24.8
そう思わない	159	47.3	191	52.5	142	54.4	127	54.3	123	54.9	742	52.3
まったくそう思わない	21	6.3	25	6.9	25	9.6	24	10.3	25	11.2	120	8.5
合計	336	100.0	364	100.0	261	100.0	234	100.0	224	100.0	1419	100.0

1-7.子どもの個性は、その子の一部であって、親の働きかけによっても大きく変えることができないと思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
強くそう思う	20	6.0	17	4.7	13	5.0	11	4.7	12	5.4	73	5.2
そう思う	139	41.4	159	43.8	111	42.5	97	41.5	83	37.1	589	41.5
どちらでもない	73	21.7	79	21.8	59	22.6	61	26.0	56	25.0	328	23.1
そう思わない	96	28.6	101	27.8	70	26.8	59	25.2	66	29.5	392	27.7
まったくそう思わない	8	2.4	7	1.9	8	3.1	6	2.6	7	3.0	36	2.5
合計	336	100.0	363	100.0	261	100.0	234	100.0	224	100.0	1418	100.0

1-8.子どもの個性は、子育てを通じていつでも変えることができると思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
強くそう思う	20	6.0	23	6.4	14	5.4	14	6.0	12	5.3	83	5.9
そう思う	113	33.7	122	33.7	88	33.8	73	31.1	86	38.2	482	34.0
どちらでもない	121	36.1	133	36.7	101	38.8	84	35.7	72	32.0	511	36.0
そう思わない	71	21.2	75	20.7	49	18.8	59	25.1	48	21.3	302	21.3
まったくそう思わない	10	3.0	9	2.5	8	3.2	5	2.1	7	3.1	39	2.8
合計	335	100.0	362	100.0	260	100.0	235	100.0	225	100.0	1417	100.0

2-1.他の子どもと比べて、自分の子どもの発達が遅れているのではないかと思う

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	92	27.4	106	29.0	69	26.5	64	27.4	60	26.7	391	27.5
ときどきある	132	39.3	142	38.9	110	42.3	100	42.7	85	37.8	569	40.1
あまりない	88	26.2	102	27.9	69	26.5	62	26.5	65	28.9	386	27.2
まったくない	24	7.1	15	4.2	12	4.7	8	3.4	15	6.7	74	5.2
合計	336	100.0	365	100.0	260	100.0	234	100.0	225	100.0	1420	100.0

2-2.子どもとうまくかかわれていると感じる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	4	1.2	7	1.9	147	56.3	3	1.3	2	0.9	163	11.5
ときどきある	49	14.6	51	14.1	67	25.7	27	11.6	34	15.1	228	16.1
あまりない	192	57.3	191	52.8	43	16.5	136	58.6	128	56.9	690	48.8
まったくない	90	26.9	113	31.2	4	1.5	66	28.5	61	27.1	334	23.6
合計	335	100.0	362	100.0	261	100.0	232	100.0	225	100.0	1415	100.0

2.3.子どもを育てることは苦手だと感じる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	50	14.9	59	16.2	38	14.6	36	15.4	33	14.7	216	15.2
ときどきある	118	35.1	123	33.8	93	35.8	81	34.6	74	32.9	489	34.5
あまりない	139	41.4	152	41.8	106	40.8	101	43.2	97	43.1	595	41.9
まったくない	29	8.6	30	8.2	23	8.8	16	6.8	21	9.3	119	8.4
合計	336	100.0	364	100.0	260	100.0	234	100.0	225	100.0	1419	100.0

2.4.子どもを育てることは、有意義ですばらしいことだと思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	1	0.3	1	0.3	1	0.4	0	0.0	5	2.2	8	0.5
ときどきある	26	7.8	15	4.1	11	4.2	12	5.2	14	6.2	78	5.5
あまりない	105	31.3	127	35.1	94	36.2	76	32.8	74	32.9	476	33.7
まったくない	203	60.6	219	60.5	154	59.2	144	62.0	132	58.7	852	60.3
合計	335	100.0	362	100.0	260	100.0	232	100.0	225	100.0	1414	100.0

2.5.子どもを育てるために我慢ばかりしている。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	19	5.7	26	7.2	22	8.5	19	8.1	17	7.6	103	7.3
ときどきある	135	40.2	153	42.1	102	39.2	91	38.9	92	40.9	573	40.4
あまりない	158	47.0	168	46.3	122	46.9	113	48.3	108	48.0	669	47.2
まったくない	24	7.1	16	4.4	14	5.4	11	4.7	8	3.6	73	5.1
合計	336	100.0	363	100.0	260	100.0	234	100.0	225	100.0	1418	100.0

2.6.子育てで、困ったことがあっても何とかかなると思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	0	0.0	2	0.5	1	.4	1	0.4	3	1.3	7	0.5
ときどきある	23	6.9	22	6.1	16	6.1	14	6.0	15	6.7	90	6.4
あまりない	167	49.9	165	45.6	131	50.2	138	59.2	116	51.6	717	50.6
まったくない	145	43.2	173	47.8	113	43.3	80	34.4	91	40.4	602	42.5
合計	335	100.0	362	100.0	261	100.0	233	100.0	225	100.0	1416	100.0

2.7.他の子どもにはできて、自分の子どもにはできないことが多いと感じる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	65	19.4	50	13.8	31	11.9	30	12.8	25	11.2	201	14.2
ときどきある	166	49.6	206	56.7	136	52.1	127	54.3	109	48.7	744	52.5
あまりない	82	24.4	88	24.2	82	31.4	63	26.9	68	30.4	383	27.0
まったくない	22	6.6	19	5.3	12	4.6	14	6.0	22	9.7	89	6.3
合計	335	100.0	363	100.0	261	100.0	234	100.0	224	100.0	1417	100.0

2-8.子どもを育てるのは楽しいと思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	2	0.6	4	1.1	1	0.4	0	0.0	0	0.0	7	0.5
ときどきある	11	3.3	13	3.6	13	5.0	5	2.1	16	7.1	58	4.1
あまりない	125	37.3	140	38.6	104	39.8	100	42.7	91	40.4	560	39.5
まったくない	197	58.8	206	56.7	143	54.8	129	55.2	118	52.5	793	55.9
合計	335	100.0	363	100.0	261	100.0	234	100.0	225	100.0	1418	100.0

2-9.子どもを育てることによって、自分も成長しているのだと感じる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	0	0.0	4	1.1	0	0.0	0	0.0	3	1.3	7	0.5
ときどきある	23	6.6	13	3.6	14	5.4	11	4.7	12	5.3	73	5.1
あまりない	89	26.6	119	32.7	73	28.0	76	32.6	55	24.4	412	29.1
まったくない	223	66.8	228	62.6	174	66.6	146	62.7	155	68.9	926	65.3
合計	335	100.0	364	100.0	261	100.0	233	100.0	225	100.0	1418	100.0

2-10.自分ひとりだけで子育てしているような気がする。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	110	32.8	112	29.1	66	25.3	81	34.6	53	23.6	422	29.7
ときどきある	128	38.2	139	38.1	103	39.5	71	30.3	79	35.1	520	36.6
あまりない	81	24.2	93	25.5	78	29.9	64	27.4	77	34.2	393	27.7
まったくない	16	4.8	21	7.3	14	5.3	18	7.7	16	7.1	85	6.0
合計	335	100.0	365	100.0	261	100.0	234	100.0	225	100.0	1420	100.0

2-11.子どもに時間を取られて、自分のやりたいことができず、イライラする。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	25	7.4	26	7.1	29	11.1	19	8.1	21	9.3	120	8.4
ときどきある	99	29.5	110	30.1	75	28.7	73	31.2	73	32.4	430	30.3
あまりない	177	52.7	195	53.4	127	48.7	130	55.6	116	51.6	745	52.4
まったくない	35	10.4	34	9.4	30	11.5	12	5.1	15	6.7	126	8.9
合計	336	100.0	365	100.0	261	100.0	234	100.0	225	100.0	1421	100.0

2-12.園や学校で、自分の子どもが他の子どもに遅れないでついていけるか不安になる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくある	70	20.8	49	13.4	27	10.3	32	13.7	30	13.3	208	14.6
ときどきある	118	35.2	140	38.4	104	39.8	83	35.5	75	33.3	520	36.6
あまりない	115	34.2	140	38.4	102	39.1	97	41.5	90	40.0	544	38.3
まったくない	33	9.8	36	9.8	28	10.7	22	9.3	30	13.3	149	10.5
合計	336	100.0	365	100.0	261	100.0	234	100.0	225	100.0	1421	100.0

2-13.子どもの成長が楽しみだと感じる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	1	0.3	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.4	3	0.2
少しあてはまる	2	0.6	6	1.6	3	1.2	5	2.1	8	3.6	24	1.7
あまりあてはまらない	53	15.8	68	18.9	54	20.8	50	21.5	51	22.8	276	19.5
まったくあてはまらない	280	83.3	291	79.5	202	77.6	178	76.4	164	73.2	1115	78.6
合計	336	100.0	365	100.0	260	100.0	233	100.0	224	100.0	1418	100.0

2-14.毎日子育ての繰り返しばかりで、社会との絆が切れてしまうように感じる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	94	28.0	89	24.4	83	31.8	83	35.5	92	40.9	441	31.1
少しあてはまる	123	36.6	140	38.5	96	36.8	86	36.8	92	40.9	537	37.8
あまりあてはまらない	96	28.6	110	30.2	69	26.4	56	23.9	35	15.6	366	25.8
まったくあてはまらない	23	6.8	25	6.9	13	5.0	9	3.8	6	2.7	76	5.3
合計	336	100.0	364	100.0	261	100.0	234	100.0	225	100.0	1420	100.0

2-15.子育てで私でなければできないことがあると思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	15	4.5	14	3.9	7	2.7	6	2.6	11	4.9	53	3.7
少しあてはまる	96	28.8	74	20.4	56	21.6	53	22.7	66	29.3	345	24.4
あまりあてはまらない	129	38.6	155	42.7	110	42.5	108	46.4	87	38.7	589	41.7
まったくあてはまらない	94	28.1	120	33.0	86	33.2	66	28.3	61	27.1	427	30.2
合計	334	100.0	363	100.0	259	100.0	233	100.0	225	100.0	1414	100.0

2-16.同年齢の子どもと比べて、自分の子どもは幼いと感じる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	83	24.7	97	26.7	53	20.4	45	19.2	36	16.1	314	22.2
少しあてはまる	147	43.8	164	45.2	97	37.3	99	42.3	83	37.1	590	41.6
あまりあてはまらない	79	23.5	84	23.1	84	32.3	71	30.3	79	35.3	397	28.0
まったくあてはまらない	27	8.0	18	5.0	26	10.0	19	8.2	26	11.5	116	8.2
合計	336	100.0	363	100.0	260	100.0	234	100.0	224	100.0	1417	100.0

3-1.子どもが自分から進んで物事に取り組めるように見守る。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	2	0.1
少しあてはまる	28	8.4	30	8.2	25	9.6	21	9.1	27	12.0	131	9.3
あまりあてはまらない	206	61.5	227	62.2	176	67.4	155	66.8	151	67.1	915	64.5
まったくあてはまらない	100	29.8	108	29.6	60	23.0	56	24.1	46	20.5	370	26.1
合計	335	100.0	365	100.0	261	100.0	232	100.0	225	100.0	1418	100.0

3-2.子どもに好きだという気持ちを伝える。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
少しあてはまる	11	3.3	14	3.8	14	5.4	9	3.9	22	9.8	70	4.9
あまりあてはまらない	88	26.2	109	29.9	81	31.0	87	37.3	92	40.9	457	32.2
まったくあてはまらない	237	70.5	242	66.3	166	63.6	137	58.8	111	49.3	893	62.9
合計	336	100.0	365	100.0	261	100.0	233	100.0	225	100.0	1420	100.0

3-3.子どもの得意なことを伸ばせるように働きかける。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	2	0.1
少しあてはまる	26	7.8	24	6.6	15	5.7	8	3.4	15	6.7	88	6.2
あまりあてはまらない	164	49.0	186	51.0	124	47.5	118	50.9	125	55.6	717	50.6
まったくあてはまらない	144	42.9	155	42.4	122	46.7	106	45.7	84	37.3	611	43.1
合計	335	100.0	365	100.0	261	100.0	232	100.0	225	100.0	1418	100.0

3-4.子どもが自分で決めたことは尊重する。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
少しあてはまる	12	3.6	11	3.0	6	2.3	6	2.6	11	4.9	46	3.2
あまりあてはまらない	174	51.8	181	49.6	159	60.9	126	54.3	123	54.7	763	53.8
まったくあてはまらない	150	44.6	173	47.4	96	36.8	100	43.1	91	40.4	610	43.0
合計	336	100.0	365	100.0	261	100.0	232	100.0	225	100.0	1419	100.0

3-5.子どもが嫌なことでもがんばっていたら、ごほうびとして何かを与える。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	3	0.9	11	3.0	6	2.3	10	4.3	11	4.9	41	2.9
少しあてはまる	70	20.8	83	22.7	62	23.8	64	27.5	63	28.0	342	24.1
あまりあてはまらない	198	58.9	215	58.9	157	60.2	128	54.9	129	57.3	827	58.2
まったくあてはまらない	65	19.4	56	15.4	36	13.8	31	13.3	22	9.8	210	14.8
合計	336	100.0	365	100.0	261	100.0	233	100.0	225	100.0	1420	100.0

3-6.子どもが悪いことをすると、子どもの体をびしゃりとたたく。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	65	19.4	65	17.9	40	15.4	48	20.6	34	15.1	252	17.8
少しあてはまる	106	31.6	119	32.7	87	33.5	75	32.2	74	32.9	461	32.5
あまりあてはまらない	141	42.1	162	44.5	114	43.8	100	42.9	104	46.2	621	43.8
まったくあてはまらない	23	6.9	18	4.9	19	7.3	10	4.3	13	5.8	83	5.9
合計	335	100.0	364	100.0	260	100.0	233	100.0	225	100.0	1417	100.0

3-7.子どもが悲しんでいるときには、そばにいてあげる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
少しあてはまる	4	1.2	7	1.9	10	3.8	10	4.3	9	4.0	40	2.8
あまりあてはまらない	104	31.0	139	38.1	102	39.1	104	44.6	105	46.7	554	39.0
まったくあてはまらない	227	67.8	219	60.0	149	57.1	119	51.1	111	49.3	825	58.2
合計	335	100.0	365	100.0	261	100.0	233	100.0	225	100.0	1419	100.0

3-8.子どもが悪いことをすると、感情的にしかる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	5	1.5	6	1.6	2	0.8	3	1.3	3	1.3	19	1.4
少しあてはまる	42	12.5	56	15.4	40	15.4	33	14.2	36	16.0	207	14.6
あまりあてはまらない	239	71.3	240	66.0	168	64.9	163	70.0	149	66.2	959	67.7
まったくあてはまらない	49	14.7	62	17.0	49	18.9	34	14.5	37	16.5	231	16.3
合計	335	100.0	364	100.0	259	100.0	233	100.0	225	100.0	1416	100.0

3-9.子どもと話したり遊んだりする。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
少しあてはまる	6	1.8	6	1.6	12	4.6	0	0.0	9	4.0	33	2.3
あまりあてはまらない	84	25.0	116	31.8	90	34.6	89	38.2	82	36.4	461	32.5
まったくあてはまらない	246	73.2	243	66.6	158	60.8	144	61.8	134	59.6	925	65.2
合計	336	100.0	365	100.0	260	100.0	233	100.0	225	100.0	1419	100.0

3-10.子どもが言うことをきかないと、子どもの手や足をびしゃりとたたく。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	91	27.1	99	27.2	64	24.6	63	27.2	48	21.3	365	25.8
少しあてはまる	111	33.0	127	34.9	89	34.2	81	34.9	73	32.4	481	33.9
あまりあてはまらない	117	34.8	124	34.1	87	33.5	81	34.9	96	42.7	505	35.6
まったくあてはまらない	17	5.1	14	3.8	20	7.7	7	3.0	8	3.6	66	4.7
合計	336	100.0	364	100.0	260	100.0	232	100.0	225	100.0	1417	100.0

3-11.子どもが自分で考えて行動できるように助言する。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	1	0.3	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1
少しあてはまる	13	3.9	18	4.9	8	3.1	8	3.4	12	5.3	59	4.2
あまりあてはまらない	200	59.5	205	56.2	179	68.8	151	64.8	142	63.1	877	61.8
まったくあてはまらない	122	36.3	141	38.6	73	28.1	74	31.9	71	31.6	481	33.9
合計	336	100.0	365	100.0	260	100.0	233	100.0	225	100.0	1419	100.0

3-12.子どもが失敗したときは、次にうまくいくようにアドバイスをする。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1
少しあてはまる	11	3.3	19	5.2	8	3.1	11	4.7	10	4.5	59	4.2
あまりあてはまらない	174	51.9	189	51.8	142	54.4	133	57.1	131	58.5	769	54.2
まったくあてはまらない	150	44.8	156	42.7	111	42.5	89	38.2	83	37.0	589	41.5
合計	335	100.0	365	100.0	261	100.0	233	100.0	224	100.0	1418	100.0

3-13.子どもがうまくできないときにはヒントを与える。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0	1	0.1
少しあてはまる	12	3.6	18	4.9	9	3.5	3	1.3	8	3.6	50	3.5
あまりあてはまらない	182	54.2	195	53.6	144	55.4	140	60.1	136	60.7	797	56.2
まったくあてはまらない	142	42.2	151	41.5	106	40.7	90	38.6	80	35.7	569	40.2
合計	336	100.0	364	100.0	260	100.0	233	100.0	224	100.0	1417	100.0

3-14.子どもが良いことをしたら、ごほうびに何かをあげる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	13	3.9	26	7.1	11	4.2	16	6.9	21	9.3	87	6.1
少しあてはまる	97	29.0	130	35.6	97	37.3	88	37.8	85	37.8	497	35.1
あまりあてはまらない	185	55.2	174	47.7	126	48.5	107	45.9	102	45.3	694	48.9
まったくあてはまらない	40	11.9	35	9.6	26	10.0	22	9.4	17	7.6	140	9.9
合計	335	100.0	365	100.0	260	100.0	233	100.0	225	100.0	1418	100.0

3-15.子どもが自分で決めたことは、最後まで取り組めるように支援する。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0	1	0.1
少しあてはまる	18	5.4	17	4.7	12	4.6	5	2.2	13	5.8	65	4.6
あまりあてはまらない	179	53.3	192	52.9	139	53.4	133	57.3	119	52.9	762	53.8
まったくあてはまらない	139	41.3	154	42.4	108	41.6	94	40.5	93	41.3	588	41.5
合計	336	100.0	363	100.0	260	100.0	232	100.0	225	100.0	1416	100.0

3-16.子どもが言うことをきかないと、大声でどなる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	9	2.7	13	3.6	7	2.7	16	6.9	8	3.6	53	3.7
少しあてはまる	74	22.0	85	23.3	54	20.7	40	17.2	39	17.3	292	20.6
あまりあてはまらない	199	59.2	223	61.1	151	57.9	139	59.7	132	58.7	844	59.4
まったくあてはまらない	54	16.1	44	12.0	49	18.7	38	16.2	46	20.4	231	16.3
合計	336	100.0	365	100.0	261	100.0	233	100.0	225	100.0	1420	100.0



3-17.子どものことを決めるときは、どれがよいのか子どもの意見を聞く。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.4	2	0.1
少しあてはまる	9	2.7	13	3.6	11	4.2	7	3.0	9	4.0	49	3.5
あまりあてはまらない	175	52.2	174	47.8	133	51.4	120	51.5	106	47.3	708	50.0
まったくあてはまらない	151	45.1	176	48.3	115	44.2	106	45.5	108	48.3	656	46.4
合計	335	100.0	364	100.0	259	99.8	233	100.0	224	100.0	1415	100.0

3-18.子どもに元気がないときは、子どもの気持ちが和らぐように接する。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
少しあてはまる	10	3.0	13	3.6	8	3.1	10	4.3	10	4.4	51	3.6
あまりあてはまらない	154	46.0	171	46.8	137	52.7	128	54.9	124	55.1	714	50.3
まったくあてはまらない	171	51.0	181	49.6	115	44.2	95	40.8	91	40.5	653	46.1
合計	335	100.0	365	100.0	260	100.0	233	100.0	225	100.0	1418	100.0

3-19.自分のきげんが悪いと、普段よりきつくしかる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	14	4.2	15	4.1	12	4.6	6	2.6	14	6.3	61	4.3
少しあてはまる	74	22.1	81	22.3	61	23.4	64	27.5	52	23.2	332	23.4
あまりあてはまらない	197	58.8	222	61.0	154	59.0	137	58.8	123	54.9	833	58.8
まったくあてはまらない	50	14.9	46	12.6	34	13.0	26	11.1	35	15.6	191	13.5
合計	335	100.0	364	100.0	261	100.0	233	100.0	224	100.0	1417	100.0

3-20.子どもが何かを選んだり決めたりするとき、できるだけ子どもに任せる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1
少しあてはまる	13	3.9	17	4.7	14	5.4	10	4.3	18	8.0	72	5.1
あまりあてはまらない	191	57.0	190	52.6	161	61.9	139	59.7	115	51.1	796	56.3
まったくあてはまらない	131	39.1	153	42.4	85	32.7	84	36.0	92	40.9	545	38.5
合計	335	100.0	361	100.0	260	100.0	233	100.0	225	100.0	1414	100.0

3-21.忙しくても、園・学校であった話を聞く時間をとる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	2	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1
少しあてはまる	18	5.4	29	8.0	16	6.2	6	2.6	22	9.8	91	6.5
あまりあてはまらない	119	35.5	125	34.2	99	38.1	119	51.1	98	43.6	560	39.5
まったくあてはまらない	196	58.5	211	57.8	145	55.7	108	46.3	105	46.6	765	53.9
合計	335	100.0	365	100.0	260	100.0	233	100.0	225	100.0	1418	100.0

3-22.子どもの能力が伸びるように応援する。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1
少しあてはまる	10	3.0	13	3.6	5	2.0	4	1.7	7	3.1	39	2.8
あまりあてはまらない	134	40.2	143	39.2	120	46.2	108	46.4	101	44.9	606	42.8
まったくあてはまらない	189	56.8	208	56.9	135	51.8	121	51.9	117	52.0	770	54.3
合計	333	100.0	365	100.0	260	100.0	233	100.0	225	100.0	1416	100.0

3-23.子どもに自信がなさそうなときは、あなたならできると励ます。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
少しあてはまる	16	4.8	24	6.6	3	1.2	4	1.7	13	5.8	60	4.2
あまりあてはまらない	132	39.5	133	36.5	124	47.7	119	51.1	107	47.8	615	43.5
まったくあてはまらない	186	55.7	207	56.9	133	51.1	110	47.2	104	46.4	740	52.3
合計	334	100.0	364	100.0	260	100.0	233	100.0	224	100.0	1415	100.0

3-24.子どもが悪いことをしたとき、自分の気分によってしかる程度が変わる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	21	6.3	26	7.1	16	6.2	12	5.2	21	9.3	96	6.8
少しあてはまる	108	32.2	112	30.8	81	31.2	90	38.6	63	28.0	454	32.0
あまりあてはまらない	168	50.1	189	51.9	129	49.6	109	46.8	118	52.4	713	50.3
まったくあてはまらない	38	11.4	37	10.2	34	13.0	22	9.4	23	10.3	154	10.9
合計	335	100.0	364	100.0	260	100.0	233	100.0	225	100.0	1417	100.0

3-25.子どもが、「自分ができる」という自信をもてるように、手助けする。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1
少しあてはまる	13	3.9	18	4.9	9	3.5	7	3.0	13	5.8	60	4.2
あまりあてはまらない	165	49.3	168	46.0	137	52.7	128	54.9	125	55.6	723	51.0
まったくあてはまらない	157	46.8	178	48.8	114	43.8	98	42.1	87	38.6	634	44.7
合計	335	100.0	365	100.0	260	100.0	233	100.0	225	100.0	1418	100.0

3-26.子どもが話し始めたら、まずは最後まで聞いてあげる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	1	0.1
少しあてはまる	9	2.7	9	2.5	10	3.8	4	1.8	12	5.3	44	3.1
あまりあてはまらない	140	41.7	144	39.3	113	43.3	115	49.1	124	55.1	636	44.7
まったくあてはまらない	187	55.6	213	58.2	138	52.9	115	49.1	88	39.2	741	52.1
合計	336	100.0	366	100.0	261	100.0	234	100.0	225	100.0	1422	100.0

3-27.子どもが自分ひとりで決められないようなことには、選択肢を与える。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	2	0.5	1	0.4	0	0.0	0	0.0	3	0.2
少しあてはまる	11	3.3	14	3.8	16	6.1	9	3.8	8	3.6	58	4.1
あまりあてはまらない	166	49.4	194	53.2	125	47.9	136	58.1	140	62.2	761	53.6
まったくあてはまらない	159	47.3	155	42.5	119	45.6	89	38.1	77	34.2	599	42.1
合計	336	100.0	365	100.0	261	100.0	234	100.0	225	100.0	1421	100.0

3-28.子ども自身のことは子どもが自分で決めるように励ます。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	2	0.8	0	0.0	0	0.0	2	0.1
少しあてはまる	32	9.5	31	8.5	15	5.7	12	5.1	11	4.9	101	7.1
あまりあてはまらない	206	61.3	212	58.1	168	64.4	147	62.8	146	64.9	879	61.9
まったくあてはまらない	98	29.2	122	33.4	76	29.1	75	32.1	68	30.2	439	30.9
合計	336	100.0	365	100.0	261	100.0	234	100.0	225	100.0	1421	100.0

3-29.子どもがしていることに興味を持って言葉をかける。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	1	0.1
少しあてはまる	18	5.4	24	6.6	17	6.5	9	3.8	18	8.0	86	6.0
あまりあてはまらない	193	57.6	203	55.6	156	59.8	141	60.3	129	57.3	822	57.9
まったくあてはまらない	124	37.0	138	37.8	88	33.7	84	35.9	77	34.3	511	36.0
合計	335	100.0	365	100.0	261	100.0	234	100.0	225	100.0	1420	100.0

3-30.子どもが難しいことに挑戦するときは、できそうなところからやるように促す。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	1	0.3	2	0.6	0	0.0	1	0.4	1	0.4	5	0.4
少しあてはまる	30	8.9	45	12.3	26	10.0	26	11.1	29	12.9	156	11.0
あまりあてはまらない	187	55.7	191	52.2	139	53.5	128	54.7	117	52.0	762	53.6
まったくあてはまらない	118	35.1	128	34.9	95	36.5	79	33.8	78	34.7	498	35.0
合計	336	100.0	366	100.0	260	100.0	234	100.0	225	100.0	1421	100.0

4-1.私は自分に満足している。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	54	16.1	66	18.1	40	15.3	37	15.8	29	12.9	226	15.9
どちらかといえばはい	102	30.4	99	27.2	82	31.4	67	28.6	68	30.2	418	29.5
どちらかといえばいいえ	147	43.9	163	44.8	117	44.8	113	48.3	114	50.7	654	46.1
いいえ	32	9.6	36	9.9	22	8.5	17	7.3	14	6.2	121	8.5
合計	335	100.0	364	100.0	261	100.0	234	100.0	225	100.0	1419	100.0

4.2.私は自分がだめな人間だと思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	63	18.8	66	18.1	49	19.0	40	17.1	29	12.9	247	17.4
どちらかといえばはい	132	39.3	163	44.7	100	38.8	103	44.0	124	55.1	622	43.9
どちらかといえばいいえ	111	33.0	106	29.0	86	33.3	70	30.0	62	27.6	435	30.7
いいえ	30	8.9	30	8.2	23	8.9	21	8.9	10	4.4	114	8.0
合計	336	100.0	365	100.0	258	100.0	234	100.0	225	100.0	1418	100.0

4.3.私は自分には見どころがあると思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	41	12.2	42	11.6	25	9.7	28	12.0	13	5.8	149	10.5
どちらかといえばはい	125	37.2	151	41.7	100	38.6	90	38.5	96	42.9	562	39.7
どちらかといえばいいえ	144	42.9	142	39.2	110	42.5	96	41.0	98	43.8	590	41.7
いいえ	26	7.7	27	7.5	24	9.2	20	8.5	17	7.5	114	8.1
合計	336	100.0	362	100.0	259	100.0	234	100.0	224	100.0	1415	100.0

4.4.私は、たいていの人がやれる程度には物事ができる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	8	2.4	11	3.0	7	2.7	11	4.7	8	3.6	45	3.2
どちらかといえばはい	64	19.0	71	19.5	45	17.3	37	15.8	47	21.0	264	18.6
どちらかといえばいいえ	182	54.2	206	56.6	145	55.8	137	58.5	124	55.4	794	56.0
いいえ	82	24.4	76	20.9	63	24.2	49	21.0	45	20.0	315	22.2
合計	336	100.0	364	100.0	260	100.0	234	100.0	224	100.0	1418	100.0

4.5.私には得意に思うことがない。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	85	25.3	97	26.6	71	27.3	54	23.2	65	29.0	372	26.2
どちらかといえばはい	118	35.1	140	38.3	96	36.9	79	33.9	92	41.1	525	37.0
どちらかといえばいいえ	108	32.1	97	26.6	71	27.3	80	34.3	47	21.0	403	28.5
いいえ	25	7.5	31	8.5	22	8.5	20	8.6	20	8.9	118	8.3
合計	336	100.0	365	100.0	260	100.0	233	100.0	224	100.0	1418	100.0

4.6.私は自分が役立たずだと感じる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	137	40.8	143	39.2	91	35.1	78	33.3	93	41.3	542	38.1
どちらかといえばはい	121	36.0	150	41.1	124	47.9	96	41.0	89	39.6	580	40.9
どちらかといえばいいえ	62	18.5	57	15.6	33	12.7	47	20.1	39	17.3	238	16.8
いいえ	16	4.7	15	4.1	11	4.3	13	5.6	4	1.8	59	4.2
合計	336	100.0	365	100.0	259	100.0	234	100.0	225	100.0	1419	100.0

4-7.私は自分が、少なくとも他人と同じくらいの価値のある人間だと思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	10	3.0	12	3.3	14	5.4	13	5.6	5	2.2	54	3.8
どちらかといえばはい	60	18.0	59	16.3	37	14.2	39	16.7	24	10.7	219	15.5
どちらかといえばいいえ	151	45.3	180	49.9	134	51.3	118	50.6	114	50.9	697	49.4
いいえ	112	33.7	110	30.5	76	29.1	63	27.1	81	36.2	442	31.3
合計	333	100.0	361	100.0	261	100.0	233	100.0	224	100.0	1412	100.0

4-8.もう少し自分を尊敬できたらと思う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	27	8.0	30	8.3	23	8.8	15	6.4	19	8.5	114	8.1
どちらかといえばはい	69	20.5	78	21.5	57	21.9	55	23.6	57	25.4	316	22.3
どちらかといえばいいえ	149	44.3	156	43.1	119	45.8	104	44.6	99	44.2	627	44.3
いいえ	91	27.2	98	27.1	61	23.5	59	25.4	49	21.9	358	25.3
合計	336	100.0	362	100.0	260	100.0	233	100.0	224	100.0	1415	100.0

4-9.自分を失敗者だと思いがちである。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	116	34.5	131	36.0	66	25.5	56	23.9	68	30.2	437	30.8
どちらかといえばはい	135	40.2	139	38.2	109	42.1	95	40.6	93	41.3	571	40.3
どちらかといえばいいえ	65	19.3	77	21.2	62	23.9	64	27.4	47	20.9	315	22.2
いいえ	20	6.0	17	4.6	22	8.5	19	8.1	17	7.6	95	6.7
合計	336	100.0	364	110.0	259	100.0	234	100.0	225	100.0	1418	100.0

4-10.私は自分に対して、前向きな態度をとっている。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	12	3.6	17	4.7	8	3.1	16	6.8	3	1.3	56	3.9
どちらかといえばはい	70	20.9	76	20.8	61	23.5	44	18.8	61	27.2	312	22.0
どちらかといえばいいえ	163	48.7	178	48.8	132	50.8	122	52.1	99	44.2	694	48.9
いいえ	90	26.8	94	25.7	59	22.6	52	22.3	61	27.3	356	25.2
合計	335	100.0	365	100.0	260	100.0	234	100.0	224	100.0	1418	100.0

# 子どもの意欲についての調査 －保育者用調査票－

このたび、(公財)日本教材文化研究財団からの委託を受け、子どもの意欲についての調査を実施することになりました。この調査は、最近の子どもの意欲の実態を明らかにし、保護者様からの調査結果と合わせて、どのような子育てが子どもの意欲にプラスあるいはマイナスに影響するのかを分析し、今後の子育てのあり方等を検討するために行うものです。

ご回答いただきました結果はすべて統計的に処理します。お名前等のご記入は必要ありません。また、回答者ならびに関係する園等にご迷惑をおかけすることは決してありませんので、安心してご回答ください。

この調査票は、回答が終わりましたら、園ごとにまとめて、郵送してください。

調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力いただけますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

平成27年6月

学ぶ意欲研究会 代表 筑波大学教授 櫻井茂男  
お問い合わせ先 公益財団法人 日本教材文化研究財団  
住所 東京都新宿区払方町14-1  
電話 (03)5225-0255

◆はじめに、以下にご記入をお願いします。

性別 ( 男 ・ 女 )

年齢 ( \_\_\_\_\_ 歳 )

保育・教育歴 ( \_\_\_\_\_ 年 )

担任している学年・クラス (学年: 4歳児・5歳児 クラス名: \_\_\_\_\_)

【2】先生のクラスにいるお子さんは以下の領域の活動がどのくらいできますか。選択肢の中からあてはまる数字を記入してください。

《選択肢》 4. よくできる 3. だいたいできる 2. あまりできない 1. できない

出席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
言語理解										
数量理解										
運動										

出席番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
言語理解										
数量理解										
運動										

出席番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
言語理解										
数量理解										
運動										

出席番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
言語理解										
数量理解										
運動										

お忙しい中ご回答いただき、誠にありがとうございました。  
封筒に入れて厳封した上で、園長先生にお渡してください。

# 子どもの意欲についての調査

## －教師用調査票－

このたび、(公財)日本教材文化研究財団からの委託を受け、子どもの意欲についての調査を実施することになりました。この調査は、最近の子どもの意欲の実態を明らかにし、保護者様からの調査結果と合わせて、どのような子育てが子どもの意欲にプラスあるいはマイナスに影響するのかを分析し、今後の子育てのあり方等を検討するために行うものです。

ご回答いただきました結果はすべて統計的に処理します。お名前等のご記入は必要ありません。また、回答者ならびに関係する学校等にご迷惑をおかけすることは決してありませんので、安心してご回答ください。

この調査票は、回答が終わりましたら、学校ごとにまとめて、郵送してください。

調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力いただけますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

平成27年6月

学ぶ意欲研究会 代表 筑波大学教授 櫻井茂男  
お問い合わせ先 公益財団法人 日本教材文化研究財団  
住所 東京都新宿区払方町14-1  
電話 (03)5225-0255

◆はじめに、以下にご記入をお願いします。

性別 ( 男 ・ 女 )

年齢 ( \_\_\_\_\_ 歳 )

教育歴 ( \_\_\_\_\_ 年 )

担任している学年・組 ( 学年: 1年・2年・3年 組: \_\_\_\_\_ )



【2】先生のクラスにいるお子さんは以下の教科の活動がどのくらいできますか。  
 選択肢の中からあてはまる数字を記入してください。

《選択肢》 4. よくできる 3. だいたいできる 2. あまりできない 1. できない

出席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
国語										
算数										
体育										

出席番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
国語										
算数										
体育										

出席番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
国語										
算数										
体育										

出席番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
国語										
算数										
体育										

お忙しい中ご回答いただき、誠にありがとうございました。  
 封筒に入れて厳封した上で、校長先生にお渡しください。

【1】先生のクラスのお子さんについてお尋ねします。以下の項目について、日頃の様子からお感じになっている一番近い選択肢の数字を記入してください。また、一つの項目について全員分回答をしてから、次の項目に移ってください。

出席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
性別(男・女どちらかを記入してください)														
1. 簡単にはできないものを提示すると、恐れるよりも興味を持って取り組もうとする。														
2. 何でも知りたがる方だ。														
3. うまくできないことがわかると、すぐにあきらめてしまう。														
4. 1つのことを深く追求する方だ。														
5. 決めたり選んだりしなければいけないときに、誰かに決めて欲しいという気持ちが強い。														
6. がんばってやればうまくできていると思っているようだ。														
7. はじめてみるものを見つけるとすぐそばに来て、「みせて！みせて！」と言う。														
8. 難しいことよりも、簡単にできそうなことの方が好きだ。														
9. 始めたことは、最後までやり遂げる方だ。														
10. あまり疑問を持たないで、情報をそのまま受け入れる。														
11. 新しいことは何でもやってみたがる。														
12. 自分でできることも、誰かにやらせてもらおうとする。														
13. 難しいことに取り組んでいる時にも、すぐにはあきらめない。														
14. 興味を持つと、触ってみるなどしてさらに詳しく知ろうとする。														
15. 何をやってもうまくいかないほうだと思っているようだ。														
16. 自分の力でできることは、できる限り一人でやり遂げようとする。														
17. 少し難しそうなことでも、挑戦してみようとする。														
18. 自分で考えて、自分なりの答えを出すことができる。														
19. 自信がなく、苦手意識が強い。														
20. 気になることがあると、納得のいくまで質問して、詳しく知りたがる。														
21. 何か変わったことやおもしろいことはないかと、見つけようとしている。														
22. 何かに取り組む際には自信をもって取り組むことができる。														



## 保育者・教師 調査結果集計表

1.簡単にはできないものを提示すると、恐れるよりも興味を持って取り組もうとする。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	65	19.5	127	34.7	39	16.2	56	23.7	51	23.6	338	24.3
少しあてはまる	130	38.9	117	32.0	134	55.6	87	36.9	83	38.4	551	39.5
あまりあてはまらない	109	32.6	96	26.2	59	24.5	87	36.9	72	33.4	423	30.4
まったくあてはまらない	30	9.0	26	7.1	9	3.7	6	2.5	10	4.6	81	5.8
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

2.何でも知りたがる方だ。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	118	35.3	160	43.7	55	22.8	61	25.9	47	21.8	441	31.7
少しあてはまる	119	35.6	129	35.2	128	53.1	124	52.5	92	42.6	592	42.5
あまりあてはまらない	88	26.4	69	18.9	56	23.3	51	21.6	73	33.8	337	24.2
まったくあてはまらない	9	2.7	8	2.2	2	0.8	0	0	4	1.8	23	1.6
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

3.うまくできないことがわかると、すぐにあきらめてしまう。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	42	12.6	72	19.7	57	23.7	28	11.9	30	13.9	229	16.4
少しあてはまる	132	39.5	116	31.7	121	50.2	163	69.1	110	50.9	642	46.1
あまりあてはまらない	124	37.1	125	34.1	49	20.3	36	15.2	60	27.8	394	28.3
まったくあてはまらない	36	10.8	53	14.5	14	5.8	9	3.8	16	7.4	128	9.2
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

4.1つのことを深く追求する方だ。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	71	21.3	76	20.7	43	17.9	28	11.9	30	13.9	248	17.8
少しあてはまる	97	29.0	138	37.7	82	34.0	94	39.8	99	45.8	510	36.6
あまりあてはまらない	150	44.9	124	33.9	103	42.7	111	47.0	81	37.5	569	40.9
まったくあてはまらない	16	4.8	28	7.7	13	5.4	3	1.3	6	2.8	66	4.7
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

5.決めたり選んだりしなければいけないときに、誰かに決めて欲しいという気持ちが強い。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	86	25.8	91	24.8	44	18.2	30	12.7	45	20.8	296	21.2
少しあてはまる	144	43.1	109	29.8	132	54.8	158	66.9	109	50.5	652	46.8
あまりあてはまらない	88	26.3	117	32.0	51	21.2	41	17.4	55	25.5	352	25.3
まったくあてはまらない	16	4.8	49	13.4	14	5.8	7	3.0	7	3.2	93	6.7
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

6.がんばってやればうまくできていると思うようだ。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	89	26.6	155	42.4	67	27.8	54	22.9	50	23.1	415	29.8
少しあてはまる	156	46.7	142	38.8	134	55.6	129	54.7	116	53.7	677	48.6
あまりあてはまらない	79	23.7	59	16.1	37	15.4	51	21.6	49	22.7	275	19.7
まったくあてはまらない	10	3.0	10	2.7	3	1.2	2	0.8	1	0.5	26	1.9
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

7.はじめてみるものを見つけるとすぐそばに来て、「みせて!みせて!」と言う。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	154	46.1	185	50.5	78	32.4	47	19.9	61	28.2	525	37.7
少しあてはまる	103	30.8	121	33.1	117	48.5	98	41.5	108	50.0	547	39.3
あまりあてはまらない	65	19.5	49	13.4	37	15.4	90	38.2	45	20.9	286	20.5
まったくあてはまらない	12	3.6	11	3.0	9	3.7	1	0.4	2	0.9	35	2.5
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

8.難しいことよりも、簡単にできそうなことの方が好きだ。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	10	3.0	58	15.9	25	10.4	6	2.5	9	4.2	108	7.8
少しあてはまる	132	39.5	118	32.2	98	40.7	117	49.6	95	44.0	560	40.2
あまりあてはまらない	144	43.1	128	35.0	71	29.4	92	39.0	97	44.9	532	38.2
まったくあてはまらない	48	14.4	62	16.9	47	19.5	21	8.9	15	6.9	193	13.8
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

9.始めたことは、最後までやり遂げる方だ。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	112	33.5	135	36.9	77	32.0	86	36.4	65	30.1	475	34.1
少しあてはまる	121	36.2	143	39.1	107	44.4	93	39.4	94	43.5	558	40.1
あまりあてはまらない	91	27.3	74	20.2	40	16.6	52	22.0	46	21.3	303	21.7
まったくあてはまらない	10	3.0	14	3.8	17	7.1	5	2.1	11	5.1	57	4.1
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

10.あまり疑問を持たないで、情報をそのまま受け入れる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	33	9.9	20	5.5	10	4.1	3	1.3	5	2.3	71	5.1
少しあてはまる	131	39.2	107	29.2	77	32.0	69	29.2	104	48.1	488	35.0
あまりあてはまらない	122	36.5	159	43.4	104	43.2	124	52.5	82	38.0	591	42.4
まったくあてはまらない	48	14.4	80	21.9	50	20.7	40	20.0	25	11.6	243	17.5
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

11.新しいことは何でもやってみたがる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	120	35.9	153	41.8	50	20.8	38	16.1	48	22.2	409	29.4
少しあてはまる	122	36.5	129	35.2	130	53.9	126	53.4	114	52.8	621	44.6
あまりあてはまらない	82	24.6	71	19.4	55	22.8	68	28.8	52	24.1	328	23.5
まったくあてはまらない	10	3.0	13	3.6	6	2.5	4	1.7	2	0.9	35	2.5
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

12.自分でできることも、誰かにやってもらおうとする。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	82	24.6	161	44.0	74	30.7	68	28.8	46	21.3	431	30.9
少しあてはまる	121	36.2	106	29.0	119	49.4	131	55.5	137	63.4	614	44.1
あまりあてはまらない	100	29.9	67	18.3	36	14.9	32	13.6	30	13.9	265	19.0
まったくあてはまらない	31	9.3	32	8.7	12	5.0	5	2.1	3	1.4	83	6.0
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

13.難しいことに取り組んでいる時にも、すぐにはあきらめない。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	66	19.8	120	32.8	63	26.2	33	14.0	38	17.6	320	23.0
少しあてはまる	132	39.5	135	36.9	122	50.6	136	57.6	106	49.1	631	45.3
あまりあてはまらない	110	32.9	96	26.2	48	19.9	57	24.2	65	30.1	376	27.0
まったくあてはまらない	26	7.8	15	4.1	8	3.3	10	4.2	7	3.2	66	4.7
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

14.興味を持つと、触ってみるなどしてさらに詳しく知ろうとする。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	110	32.9	148	40.4	72	29.9	73	30.9	54	25.0	457	32.8
少しあてはまる	145	43.4	151	41.3	142	58.9	116	49.2	121	56.0	675	48.5
あまりあてはまらない	72	21.6	66	18.0	24	10.0	47	19.9	38	17.6	247	17.7
まったくあてはまらない	7	2.1	1	0.3	3	1.2	0	0.0	3	1.4	14	1.0
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

15.何をやってもうまいかないほうだと思っているようだ。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	116	34.7	119	32.5	80	33.2	36	15.2	33	15.3	384	27.6
少しあてはまる	159	47.6	161	44.0	131	54.4	176	74.6	149	69.0	776	55.7
あまりあてはまらない	50	15.0	65	17.8	29	12.0	21	8.9	31	14.3	196	14.1
まったくあてはまらない	9	2.7	21	5.7	1	0.4	3	1.3	3	1.4	37	2.6
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

16.自分の力でできることは、できる限り一人でやり遂げようとする。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	138	41.3	196	53.6	89	36.9	76	32.2	57	26.4	556	39.9
少しあてはまる	112	33.5	125	34.1	113	46.9	100	42.4	118	54.6	568	40.8
あまりあてはまらない	71	21.3	41	11.2	34	14.1	59	25.0	39	18.1	244	17.5
まったくあてはまらない	13	3.9	4	1.1	5	2.1	1	0.4	2	0.9	25	1.8
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

17.少し難しそうなことでも、挑戦してみようとする。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	85	25.4	151	41.3	73	30.3	31	13.1	44	20.4	384	27.6
少しあてはまる	154	46.1	125	34.2	103	42.7	132	55.9	113	52.3	627	45.0
あまりあてはまらない	80	24.0	77	21.0	55	22.8	61	25.9	51	23.6	324	23.3
まったくあてはまらない	15	4.5	13	3.5	10	4.2	12	5.1	8	3.7	58	4.1
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

18.自分で考えて、自分なりの答えを出すことができる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	105	31.4	132	36.1	55	22.8	56	23.7	47	21.8	395	28.4
少しあてはまる	142	42.5	134	36.6	127	52.7	111	47.0	112	51.8	626	44.9
あまりあてはまらない	70	21.0	92	25.1	51	21.2	64	27.1	51	23.6	328	23.5
まったくあてはまらない	17	5.1	8	2.2	8	3.3	5	2.2	6	2.8	44	3.2
合計	334	100.0	366	100.0	241	100.0	236	100.0	216	100.0	1393	100.0

19.自信がなく、苦手意識が強い。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	72	21.5	116	31.7	48	20.0	32	13.5	39	18.1	307	22.0
少しあてはまる	174	52.1	122	33.3	146	60.8	146	61.9	120	55.5	708	50.9
あまりあてはまらない	69	20.7	91	24.9	36	15.0	47	19.9	48	22.2	291	20.9
まったくあてはまらない	19	5.7	37	10.1	10	4.2	11	4.7	9	4.2	86	6.2
合計	334	100.0	366	100.0	240	100.0	236	100.0	216	100.0	1392	100.0

20.気になることがあると、納得のいくまで質問して、詳しく知りたがる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	81	24.3	98	26.8	30	12.5	32	13.6	46	21.3	287	20.6
少しあてはまる	124	37.1	140	38.2	87	36.2	100	42.4	99	45.8	550	39.5
あまりあてはまらない	116	34.7	110	30.1	119	49.6	102	43.2	61	28.3	508	36.5
まったくあてはまらない	13	3.9	18	4.9	4	1.7	2	0.8	10	4.6	47	3.4
合計	334	100.0	366	100.0	240	100.0	236	100.0	216	100.0	1392	100.0

21.何か変わったことやおもしろいことはないかと、見つけようとしている。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	106	31.7	78	21.3	42	17.5	36	15.3	30	13.9	292	21.0
少しあてはまる	139	41.6	165	45.1	125	52.1	124	52.5	123	57.0	676	48.5
あまりあてはまらない	85	25.4	98	26.8	73	30.4	74	31.4	61	28.2	391	28.1
まったくあてはまらない	4	1.2	25	6.8			2	0.8	2	0.9	33	2.4
合計	334	100.0	366	100.0	240	100.0	236	100.0	216	100.0	1392	100.0

22.何かに取り組む際には自信をもって取り組むことができる。

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくあてはまる	91	27.3	109	29.8	42	17.5	28	11.9	39	18.1	309	22.2
少しあてはまる	128	38.3	145	39.6	127	52.9	123	52.1	102	47.2	625	44.9
あまりあてはまらない	99	29.6	100	27.3	67	27.9	81	34.3	68	31.5	415	29.8
まったくあてはまらない	16	4.8	12	3.3	4	1.7	4	1.7	7	3.2	43	3.1
合計	334	100.0	366	100.0	240	100.0	236	100.0	216	100.0	1392	100.0

言語理解・国語

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくできる	225	67.4	224	61.7	62	28.1	46	21.3	39	19.5	596	44.7
だいたいできる	81	24.2	114	31.4	128	57.9	133	61.6	117	58.5	573	43.0
あまりできない	24	7.2	23	6.3	27	12.2	29	13.4	39	19.5	142	10.6
できない	4	1.2	2	0.6	4	1.8	8	3.7	5	2.5	23	1.7
合計	334	100.0	363	100.0	221	100.0	216	100.0	200	100.0	1334	100.0

数量理解・算数

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくできる	167	50.0	208	57.3	74	33.5	47	21.8	44	22.0	540	40.5
だいたいできる	132	39.5	112	30.9	122	55.2	134	62.0	123	61.5	623	46.7
あまりできない	24	7.2	40	11.0	20	9.0	28	13.0	29	14.5	141	10.6
できない	11	3.3	3	0.8	5	2.3	7	3.2	4	2.0	30	2.2
合計	334	100.0	363	100.0	221	100.0	216	100.0	200	100.0	1334	100.0

運動・体育

学年	年中		年長		小1		小2		小3		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よくできる	146	43.7	141	38.9	64	29.0	31	14.3	37	18.5	419	31.4
だいたいできる	147	44.0	158	43.5	121	54.7	144	66.7	114	57.0	684	51.3
あまりできない	33	9.9	57	15.7	29	13.1	38	17.6	47	23.5	204	15.3
できない	8	2.4	7	1.9	7	3.2	3	1.4	2	1.0	27	2.0
合計	334	100.0	363	100.0	221	100.0	216	100.0	200	100.0	1334	100.0



# 公益財団法人 日本教材文化研究財団定款

## 第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、公益財団法人 日本教材文化研究財団と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を、東京都新宿区に置く。

2 この法人は、理事会の決議を経て、必要な地に従たる事務所を設置することができる。これを変更または廃止する場合も同様とする。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、学校教育、社会教育及び家庭教育における教育方法に関する調査研究を行うとともに、学習指導の改善に資する教材・サービス等の開発利用をはかり、もってわが国の教育の振興に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の各号の事業を行う。

- (1) 学校教育、社会教育及び家庭教育における学力形成に役立つ指導方法の調査研究と教材開発
  - (2) 家庭の教育力の向上がはかれる教材やサービスの調査研究と普及公開
  - (3) 前二号に掲げる研究成果の発表及びその普及啓蒙
  - (4) 教育方法に関する国内外の研究成果の収集及び一般の利用に供すること
  - (5) 他団体の検定試験問題及びその試験に関係する教材の監修
  - (6) その他、目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、日本全国において行うものとする。

## 第3章 資産及び会計

(基本財産)

第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な別表の財産は、この法人の基本財産とする。

2 基本財産は、この法人の目的を達成するために理事長が管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第7条 この法人の事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第8条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後3箇月以内に、理事長が次の各号の書類を作成し、

監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 正味財産増減計算書
- (5) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書
- (6) 財産目録

2 第1項の規定により報告または承認された書類のほか、次の各号の書類を主たる事務所に5年間備え置き、個人の住所に関する記載を除き一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

第9条 理事長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第2項第4号の書類に記載するものとする。

## 第4章 評議員

(評議員)

第10条 この法人に、評議員16名以上21名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第11条 評議員の選任及び解任は、評議員選定委員会において行う。

2 評議員選定委員会は、評議員1名、監事1名、事務局員1名、次項の定めに基づいて選任された外部委員2名の合計5名で構成する。

3 評議員選定委員会の外部委員は、次のいずれにも該当しない者を理事会において選任する。

- (1) この法人または関連団体（主要な取引先及び重要な利害関係を有する団体を含む。以下同じ。）の業務を執行する者または使用人
- (2) 過去に前号に規定する者となったことがある者
- (3) 第1号または第2号に該当する者の配偶者、三親等内の親族、使用人（過去に使用人となった者も含む。）

4 評議員選定委員会に提出する評議員候補者は、理事会または評議員会がそれぞれ推薦することができる。評議員選定委員会の運営についての詳細は理事会において定める。

5 評議員選定委員会に評議員候補者を推薦する場合には、次に掲げる事項のほか、当該候補者を評議員として適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

- (1) 当該候補者の経歴
- (2) 当該候補者を候補者とした理由
- (3) 当該候補者とこの法人及び役員等（理事、監事及び評議員）との関係
- (4) 当該候補者の兼職状況

6 評議員選定委員会の決議は、委員の過半数が出席し、

その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

- 7 評議員選定委員会は、第10条で定める評議員の定数を欠くこととなるときに備えて、補欠の評議員を選任することができる。
- 8 前項の場合には、評議員選定委員会は、次の各号の事項も併せて決定しなければならない。
  - (1) 当該候補者が補欠の評議員である旨
  - (2) 当該候補者を1人または2人以上の特定の評議員の補欠の評議員として選任するときは、その旨及び当該特定の評議員の氏名
  - (3) 同一の評議員（2人以上の評議員の補欠として選任した場合にあっては、当該2人以上の評議員）につき2人以上の補欠の評議員を選任するときは、当該補欠の評議員相互間の優先順位
- 9 第7項の補欠の評議員の選任に係る決議は、当該決議後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで、その効力を有する。

(評議員の任期)

- 第12条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。また、再任を妨げない。
- 2 前項の規定にかかわらず、任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了するときまでとする。
- 3 評議員は、第10条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了または辞任により退任した後も、新たに選任された評議員が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬等)

- 第13条 評議員に対して、各年度の総額が500万円を超えない範囲で、評議員会において定める報酬等を支給することができる。
- 2 前項の規定にかかわらず、評議員には費用を弁償することができる。

## 第5章 評議員会

(構成)

- 第14条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権限)

- 第15条 評議員会は、次の各号の事項について決議する。
  - (1) 理事及び監事の選任及び解任
  - (2) 理事及び監事の報酬等の額
  - (3) 評議員に対する報酬等の支給の基準
  - (4) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認
  - (5) 定款の変更
  - (6) 残余財産の処分
  - (7) 基本財産の処分または除外の承認
  - (8) その他評議員会で決議するものとして法令またはこの定款で定められた事項

(開催)

- 第16条 評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、臨時評議員会として必要がある場合に開催する。

(招集)

- 第17条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対して、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議長)

- 第18条 評議員会の議長は理事長とする。
- 2 理事長が欠けたときまたは理事長に事故があるときは、評議員の互選によって定める。

(決議)

- 第19条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、次の各号の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。
  - (1) 監事の解任
  - (2) 評議員に対する報酬等の支給の基準
  - (3) 定款の変更
  - (4) 基本財産の処分または除外の承認
  - (5) その他法令で定められた事項
- 3 理事または監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事または監事の候補者の合計数が第21条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

- 第20条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 議長は、前項の議事録に記名押印する。

## 第6章 役員

(役員設置)

- 第21条 この法人に、次の役員を置く。
  - (1) 理事 7名以上12名以内
  - (2) 監事 2名または3名
- 2 理事のうち1名を理事長とする。
- 3 理事長以外の理事のうち、1名を専務理事及び2名を常務理事とする。
- 4 第2項の理事長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号）に規定する代表理事とし、第3項の専務理事及び常務理事をもって同法第197条で準用する同法第91条第1項に規定する業務執行理事（理事会の決議により法人の業務を執行する理事として選定された理事をいう。以下同じ。）とする。

(役員選任)

- 第22条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。
- 2 理事長及び専務理事並びに常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

- 第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の業務を代表し、その業務を執行する。
- 3 専務理事は、理事長を補佐する。
- 4 常務理事は、理事長及び専務理事を補佐し、理事会の議決に基づき、日常の事務に従事する。
- 5 理事長及び専務理事並びに常務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状

況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第24条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び事務局員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。

2 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。

3 前項の規定にかかわらず、任期の満了前に退任した理事または監事の補欠として選任された理事または監事の任期は、前任者の任期の満了するときまでとする。

4 理事または監事については、再任を妨げない。

5 理事または監事が第21条に定める定数に足りなくなるときまたは欠けたときは、任期の満了または辞任により退任した後も、それぞれ新たに選任された理事または監事が就任するまで、なお理事または監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第26条 理事または監事が、次の各号のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、または職務を怠ったとき
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障がありまたはこれに堪えないとき

(役員に対する報酬等)

第27条 理事及び監事に対して、各年度の総額が300万円を超えない範囲で、評議員会において定める報酬等を支給することができる。

2 前項の規定にかかわらず、理事及び監事には費用を弁償することができる。

## 第7章 理事会

(構成)

第28条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第29条 理事会は、次の各号の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び専務理事並びに常務理事の選定及び解職

(招集)

第30条 理事会は、理事長が招集するものとする。

2 理事長が欠けたときまたは理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(議長)

第31条 理事会の議長は、理事長とする。

2 理事長が欠けたときまたは理事長に事故があるときは、専務理事が理事会の議長となる。

(決議)

第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する同法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第33条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。ただし、理事長の選定を行う理事会については、他の出席した理事も記名押印する。

## 第8章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第34条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

2 前項の規定は、この定款の第3条及び第4条並びに第11条についても適用する。

(解散)

第35条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能、その他法令で定められた事由によって解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

第36条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合または合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日または当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人または国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第37条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人または国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第9章 公告の方法

(公告の方法)

第38条 この法人の公告は、電子公告による方法により行う。

2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告を行うことができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

## 第10章 事務局その他

(事務局)

第39条 この法人に事務局を設置する。

2 事務局には、事務局長及び所要の職員を置く。

3 事務局長及び重要な職員は、理事長が理事会の承認を得て任免する。

4 前項以外の職員は、理事長が任免する。

5 事務局の組織、内部管理に必要な規則その他については、理事会が定める。

(委 任)

第40条 この定款に定めるもののほか、この定款の施行について必要な事項は、理事会の決議を経て、理事長が定める。

附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第6条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 3 第22条の規定にかかわらず、この法人の最初の理事長は杉山吉茂、専務理事は新免利也、常務理事は星村平和及び中井武文とする。
- 4 第11条の規定にかかわらず、この法人の最初の評議員は、旧主務官庁の認可を受けて、評議員選定委員会において行うところにより、次に掲げるものとする。
 

有田 和正	尾田 幸雄
梶田 叡一	角屋 重樹
亀井 浩明	北島 義斉
木村 治美	佐島 群巳
佐野 金吾	清水 厚実
田中 博之	玉井美知子
中川 栄次	中里 至正
中渕 正堯	波多野義郎
原田 智仁	宮本 茂雄
山極 隆	大倉 公喜
- 5 昭和45年の法人設立時の理事及び監事は、次のとおりとする。

理事	(理事長)	平澤 興
理事	(専務理事)	堀場正夫
理事	(常務理事)	鯨坂二夫
理事	(常務理事)	渡辺 茂
理事	(常務理事)	近藤達夫
理事		平塚益徳
理事		保田 與重郎
理事		奥西 保
理事		北島織衛
理事		田中克己
監事		高橋武夫
監事		辰野千壽
監事		工藤 清

賛助会員規約

第1条 公益財団法人日本教材文化研究財団の事業目的に賛同し、事業その他運営を支援するものを賛助会員(以下「会員」という)とする。

第2条 会員は、法人、団体または個人とし、次の各号に定める賛助会費(以下「会員」という)を納めるものとする。

- (1) 法人および団体会員 一口30万円以上
- (2) 個人会員 一口6万円以上
- (3) 個人準会員 一口6万円未満

第3条 会員になろうとするものは、会費を添えて入会届を提出し、理事会の承認を受けなければならない。

第4条 会員は、この法人の事業を行う上に必要なことから、この法人の事業を行う上に必要なことについて研究協議し、その遂行に協力するものとする。

第5条 会員は次の各号の事由によってその資格を失う。

- (1) 脱退
- (2) 禁治産および準禁治産並びに破産の宣告
- (3) 死亡、失踪宣告またはこの法人の解散
- (4) 除名

第6条 会員で脱退しようとするものは、書面で申し出なければならない。

第7条 会員が次の各号(1)に該当するときは、理事現在数の4分の3以上出席した理事会の議決をもってこれを除名することができる。

- (1) 会費を滞納したとき
- (2) この法人の会員としての義務に違反したとき
- (3) この法人の名誉を傷つめまたはこの法人の目的に反する行為があったとき

第8条 既納の会費は、いかなる事由があってもこれを返還しない。

第9条 各年度において納入された会費は、事業の充実およびその継続的かつ確実な実施のため、その半分を管理費に使用する。

内閣府所管

## 公益財団法人 日本教材文化研究財団

### 理事・監事・評議員

#### (1) 理事・監事名簿 (敬称略) 13名

(平成28年8月31日現在)

役名	氏名	就任年月日	就重	職務・専門分野	備考
理事長	村上 和雄	平成26年6月6日 (理事長就任 H.26.3.7)	重	法人の代表 業務の総 務	筑波大学名誉教授 全日本家庭教育研究会総裁
専務理事	新免 利也	平成26年6月6日	重	事務総括 事業運営	(株)新学社執行役員
常務理事	中井 武文	平成26年6月6日	重	財 務	(株)新学社代表取締役会長
常務理事	星村 平和	平成26年6月6日	重	社会科教育	元兵庫教育大学教授 国立教育政策研究所名誉所員
理 事	角屋 重樹	平成26年6月6日	重	理 科 教 育	広島大学名誉教授 日本体育大学教授
理 事	北島 義俊	平成26年6月6日	重	財 務	大日本印刷(株)代表取締役社長
理 事	杉山 吉茂	平成26年6月6日	重	数 学 教 育	元早稲田大学教授 東京学芸大学名誉教授
理 事	中川 栄次	平成26年6月6日	重	財 務	(株)新学社代表取締役社長
理 事	中洩 正堯	平成28年6月3日	就	国語教育学	元兵庫教育大学学長 兵庫教育大学名誉教授
理 事	原田 智仁	平成26年6月6日	重	社会科教育	兵庫教育大学大学院教授
理 事	菱村 幸彦	平成26年6月6日	重	教 育 行 政 規 則	元文部省初中局長 国立教育政策研究所名誉所員
監 事	中合 英幸	平成26年6月6日	重	財 務	(株)新学社執行役員
監 事	古谷 滋海	平成26年6月6日	就	財 務	大日本印刷(株)常務執行役員

(50音順)

#### (2) 評議員名簿 (敬称略) 18名

役名	氏名	就任年月日	就重	担当職務	備考
評議員	秋田喜代美	平成25年12月11日	就	教育心理学・発達心理学 学校教育学	東京大学大学院教授
評議員	浅井 和行	平成26年7月25日	重	教育工学 メディア教育	京都教育大学大学院教授
評議員	安彦 忠彦	平成26年7月25日	重	教育課程論 教育評価・教育方法	名古屋大学名誉教授 神奈川大学特別招聘教授
評議員	亀井 浩明	平成26年7月25日	重	初等中等教育 キャリア教育	元東京都教委指導部長 帝京大学名誉教授
評議員	北島 義斉	平成26年7月25日	重	財 務	大日本印刷(株)代表取締役副社長
評議員	木村 治美	平成26年7月25日	重	英 文 学	共立女子大学名誉教授 エッセイスト
評議員	櫻井 茂男	平成26年7月25日	重	認知心理学・発達心理学 キャリア教育	筑波大学人間系教授
評議員	佐野 金吾	平成26年7月25日	重	社会科教育 教育課程・学校経営	元東京家政学院中・高等学校長 全国図書教材協議会会長
評議員	清水 厚実	平成26年7月25日	重	教 育 学	日本教材学会副会長 学校法人福山大学理事長
評議員	清水 美憲	平成26年7月25日	重	数 学 教 育 学 評 価	筑波大学人間系教授
評議員	下田 好行	平成26年7月25日	重	国語教育学 教育方法	元国立教育政策研究所総括研究官 東洋大学教授
評議員	鈴木 克明	平成25年12月11日	就	教育工学・情報教育 教育メディア学	熊本大学大学院教授
評議員	高木 展郎	平成26年7月25日	重	国語科教育学 教育方法学	横浜国立大学名誉教授
評議員	田中 博之	平成26年7月25日	重	教 育 工 学 学 術	早稲田大学教職大学院教授
評議員	前田 英樹	平成26年7月25日	重	フランス思想 言 語 論	立教大学教授
評議員	松浦 伸和	平成26年7月25日	重	英 語 教 育 学	広島大学大学院教授
評議員	峯 明秀	平成26年7月25日	重	社会科教育学	大阪教育大学教授
評議員	吉田 武男	平成26年7月25日	重	道 徳 教 育 家 庭 教 育 論	筑波大学人間系教授

(50音順)

調査研究シリーズ 69

---

## 学ぶ意欲に及ぼす子育て関連要因の 影響に関する研究

---

平成28年 9月30日発行

編集／公益財団法人 日本教材文化研究財団

発行人／新免 利也（専務理事）

発行所／公益財団法人 日本教材文化研究財団

〒162-0841 東京都新宿区払方町14番地 1

電話 03-5225-0255 FAX 03-5225-0256

<http://www.jfecr.or.jp>

---

表紙デザイン (株)エスファクトリー 竹内則晶／印刷 (株)天理時報社